

大学教育開発研究シリーズ  
NO.24 ● Nov. 2015

アクティブな学びをデザインするvol.5  
**授業デザインとアクティブラーニング**  
— 新任教員向けFDワークショップ開催記録 —

立教大学  
大学教育開発・支援センター

ISSN 1881-1035

アクティブな学びをデザインする vol.5  
**授業デザインとアクティブラーニング**

— 新任教員向けFDワークショップ開催記録 —

---

**立 教 大 学**

大学教育開発・支援センター

## はじめに

---

今回、当センターとしては初めてアクティブラーニングに関するワークショップを開催した。これまでも本学ではアクティブラーニングの先進的な取り組みが行われてきたが、残念ながら一部の学部や授業だけでの取り組みであった。今回のワークショップは、それを全学に浸透させたいという想いで企画され、実施されたものである。

中央教育審議会が2012年に公表した「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」いわゆる「質的転換答申」においても、「従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見だしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。」とされている。教員には、学生と「一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する」ことが求められ、そのための場が「授業」だというのだ。数十年前の大学教員がこの文章を読んだとしたら、一様に驚くのではないだろうか。アクティブラーニングへの転換によって、まさに教員にもある種の「質的転換」が迫れているように思われる。

本冊子の内容は、アクティブラーニングに関するワークショップの「実況中継」である。ただ、ワークショップは「参加してこそ意義がある」ことも否めない。ワークショップの雰囲気は少しでも伝われば嬉しいし、「次の機会があれば参加してみたい」と思っただけならば、この冊子の作成意図は達成されたと言えるだろう。

大学教員は、授業をするための教授法についてはほとんど訓練を受けないまま「教員」として教壇に立つことが多い。当然、戸惑う。きっと、自分が受けてきた授業の中から少しでも参考になる授業を思い出し、「教員」としての初心者運転を開始することだろう。しかし、受講する学生にとっては、若手であろうがベテランであろうが、「先生」は「先生」であり、素晴らしい研究をしているかどうかよりも「良い授業」「面白い授業」をする先生かどうかの方が重要である。(本当は「単位を取れる授業かどうか」の方が重要かもしれない。)今回、本学で授業

---

を担当されるあらゆる先生方（専任か否かを問わず）を対象とした実践的なワークショップという形で、これまで本学では実施されることのなかった、教授法、特にアクティブラーニングの訓練の機会を提供したことで、少しでも良い授業が学生に届けば幸いである。最後に、ワークショップにご参加いただいた先生方と当センターの職員ならびに学術調査員のお二人に改めてお礼を申し上げたい。

なお、今回のワークショップは、ご参加いただいた先生方には大変好評で、参加できなかった先生方から、「2回目は？」というご要望を数多くいただいております。早速、2015年度の秋学期に「第2回」ワークショップを開催することとなった。このスピード感は大切にしたい。

大学教育開発・支援センター 副センター長、経済学部准教授

**小澤 康裕**

はじめに 小澤 康裕	2
------------	---

挨拶・趣旨説明 小澤 康裕	7
---------------	---

## ◆ 1部

---

山本 裕子

1. 大学の授業とは何か？	9
2. シラバスとは何か？：授業の目的、到達目標の書き方	16
3. アクティブラーニングとは何か？：ALの定義	22
4. グループワークの手法	29
5. アクティブラーニングの評価：ループリック等の紹介 (山本 裕子・谷村 英洋)	42

## ◆ 2部

---

山本 裕子

グループワークの手法のフォーカス：ジグソー法	47
------------------------	----

閉会挨拶 幡野 弘樹	59
------------	----

【配布資料】	64
--------	----

【2部で使用した資料】	75
-------------	----

◆参加者アンケート集計結果とそれに対する今後のアクション	94
------------------------------	----

## ☆参加者からひと言

---

大嶋 玲未 (大学教育開発・支援センター 学術調査員)	98
-----------------------------	----

高 鉄雄 (法学部 助教)	99
---------------	----

楠本 和佳子 (全学共通カリキュラム 兼任講師)	100
--------------------------	-----

おわりに 幡野 弘樹	104
------------	-----

# 授業デザインとアクティブラーニング

---

— 新任教員向けFDワークショップ開催記録 —

2015年5月26日(火)開催

# 授業デザインとアクティブラーニング

**山本**：皆さん、こんにちは。本日は本ワークショップ（以下、WS）にお集まりいただきありがとうございます。大学教育開発・支援センターの山本と申します。最初に小澤康裕先生（Teaching and Learning 部会長）よりご挨拶いただきます。

## ■挨拶・趣旨説明

**小澤**：皆さん、こんにちは。大学教育開発・支援センターの副センター長をしております小澤です。どうぞよろしくお願いいたします。本日はお忙しいところをお集まりいただきありがとうございます。既に時間が押しておりますので、簡単に趣旨だけお話ししたいと思います。

2016 年から立教大学では、「学士課程統合カリキュラム（RIKKYO Learning Style）」がスタートします。初年次については「学びの技法」というテーマで、これから大学で学んでいく上で必要なスキルや、大学でどのように学んでいったらよいかについて学ぶ科目を各学部で展開することが決まっております。それも趣旨の 1 つで、それに向けてできるだけよい授業を提供したいと考えました。そのためにアクティブラーニングという手法を少し取り入れてみてはどうかということで、そのア



---

クティブラーニングに関して先生方に少し知っていただきたいということで、このような企画をしております。

もちろん、すでにアクティブラーニングをご存じで実践されている先生方もいらっしゃると思いますが、そのご経験を本日のワークショップで生かしていただいて、ほかの先生方に伝えていただけると大変ありがたいです。ですので、本当の初心者の方とベテランの先生、あるいは、アクティブラーニングをもう既に実践されている方がいろいろ混ざっておりますが、今日はできるだけ先生方それぞれに学びがあるようにワークショップを楽しんでいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



# 授業デザインとアクティブラーニング

## ◆1部

大学教育開発・支援センター 学術調査員  
山本 裕子

## 【1. 大学の授業とは何か？】

山本:小澤先生、ありがとうございます。それでは早速「授業デザインとアクティブラーニング」のワークショップを始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の流れはこのように【スライド2】、1部と2部の2つの構成になっております。1部は50分で、2部は60分間のワークを行います。1部はご覧のように「大学の授業とは何か？」以降5点ほどお伝えしたいと思います。なお、提示しておりますスライドは、後ほど資料として配布します。

それではまず、今日皆さんへのお願いです【スライド3】。今日はできるだけ、グループ内、あるいはクラス全体で発言をお願いします。授業の方法に正解はありませんので、発言をよろしくお願いします。発言は他の方の学びに貢献するという考え方でしていただけたいと思います。発言に対するご意見、ご批判があらうかと思いますが、その場合は、是非前向きな姿勢で代替案と一緒にご発言ください。よろしくお願いします。

それでは、先生方にはサンドイッチをお召し上がりのところ誠に申し訳ございませんが、少し食べていただいている手を止めていただいて、最初に「アイスブレイク」としまして、隣の席の方と握手をしながら以下【スライド4】のことをお互いに伝え合ってください。これを隣同士でされた後、次は向い同士で、合計2回お願いします。時間は1回1分30秒でお願いします。お伝えいただく内容は、自己紹介は氏名と所属、それから「なぜワークショップに参加しようと思ったか?」、あるいは「ワークショップで何を知りたいか、何を達成したいか?」のどの点でも構いません。全部話すと時間が足りませんので、その場合はいくつかピックアップしてお願いします。

もし握手で手をずっと握り合っているのが苦手でしたら、途中で手を離してい

【スライド 1】

【FDワークショップ】

---

# 授業デザインと アクティブラーニング

---

2015.05.26

立教大学大学教育開発・支援センター

Teaching and Learning 部会

山本 裕子

【スライド 2】

## 本日の流れ

---

### 【1部】

1. 大学の授業とは何か？
2. シラバスとは何か？ : 授業の目的, 到達目標の書き方
3. アクティブラーニングとは何か？ : ALの定義
4. グループワークの手法
5. アクティブラーニングの評価 : ルーブリック等紹介

### 【2部】

1. グループワークの手法のフォーカス : ジグソー法等

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

2

## 【スライド 3】

## お願い

今日はできるだけ発言をお願いします。  
授業の方法に正解はありません。

発言は他の参加者の学びを助けることとなります。

発言に対するご意見・ご批判は、前向き+代替案と一緒に！

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

3

## 【スライド 4】

## アイスブレイク



隣の席の人と握手をしながら、以下のことをお互いに伝えあってください。（1回：1分30秒×2回）



- ✓ 自己紹介：氏名，所属，
- ✓ 「なぜワークショップに参加しようと思ったか？」
- ✓ 「ワークショップで何を知りたいか？」
- ✓ 「ワークショップで何を達成したいか？」

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

4

---

ただいても構いません。これは「握手法」というアイスブレイクで、まず1点目の手法をご紹介しました。

それでは、始めていただいてもよろしいでしょうか。お願いします。

### 【アイスブレイク：握手法】

山本：あと30秒でお願いします。そこまでやめてください。ありがとうございます。

それでは、向い合わせの、まだ自己紹介をされていない先生方同士でお願いします。それでは、始めてください。

### 【アイスブレイク：握手法】

山本：あと30秒です。それでは、やめてください。ご着席ください。

いかがだったでしょうか。今の技法はアイスブレイクの「握手法」という手法で、これは主にMBA（経営学修士）の授業のベンチャー系科目の中で行われることがあります。何故所要時間が1分30秒かと言うと、1分30秒という短い時間の中でも相手にしっかりと自分の思いを伝えられないとベンチャーでは生き



## 【スライド 5】

## 大学の授業とは何か？

### 問い:「大学の授業」と「予備校の授業」の違いは何ですか？

→ワークシートに箇条書きで違いをできるだけ書き出してください。【2分】

※1分:チェスの試合では一手30秒の時間制限/時間無制限では、打ち手は86%同じだった→短い時間でも前へ進めた方が得られるものが多い。

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

5

残っていけないということで、相手に強く印象を残すというアイスブレイクです。先生方にも授業でご活用いただければと思います。

それでは先に進めます。お手元の配布資料に最初に「ワークシート」(巻末の「配布資料」参照)が入っていると思います。白い空欄があるこちらのシートになります。こちらに書いていただきながら作業をお願いします。サンドイッチを食べる時間があまりなくて申し訳ございません。適宜お召し上がりください。

それでは、「大学の授業とは何か？」を皆さんに考えていただきたいと思います。お一人ずつ、ワークシートに箇条書きで違いをできるだけ書き出してください。2分をお願いします。時間配分がまた短いのですが、こちらに【スライド 5】1分の注釈がありますが、チェスの試合で一手30秒の時間制限がある場合と時間が無制限の場合とでは打ち手は86%同じだったということから、短い時間でも前に進めたほうが良いということで、緊張感を持たせて進めていくという方法です。それでは、お願いします。

## 【個人ワーク】

**山本：**予備校は、大学受験の予備校と考えてください。あと1分です。それでは、やめてください。

そうしましたら、書き出していただいた項目を眺めながら、ご自分の中でその相違点を明確にして、お隣の先生とお互いの考えをシェアしてください。この手法は、皆さまにお配りしています資料の、こちらの「ALの手法」と書いてあります、アクティブラーニングの手法を順にご紹介しております。

これは、4番目のThink Pair Shareという名前がついている手法です。この名前で認識されていなくても、既に授業で実践しておられる先生方がたくさんいらっしゃると思います。この手法は、まず1人でシンク（思考）して、その後ペアで互いの考えをシェア（共有）することがミソです。つまり、まず先に1人ひとりに考えてもらうことで、自分の頭で考えず、他の人の意見を聞くだけになるのを防ぎ、その後で意見を交換する形です。

では、お隣の先生と意見交換をして、大学と予備校の授業にはどんなところに違いがあるかという点について意見をまとめてください。後ほど何人かお尋ねします。よろしくをお願いします。

## 【ペアワーク】

**山本：**それでは、そこで一旦お話を中断していただきまして、何人かの先生方にお尋ねしたいと思います。ランダムにお願いしますので、もしあたった場合は、ペアの方は運命共同体だと思って助けてあげてください。それでは、脇田先生のペアで、どういう違いがあるか、お話しいただけますか。

**脇田：**田尾先生からは、大学の場合は問題の設定を学生にさせなければいけないのに対して、予備校においては問題の設定自体はなくてそれに対する答えを出すためのトレーニングの場であるというご指摘をいただきました。

それに関連して、私も大学というのは学生の自発的な学びなどをより発展的な内容に導きたいという意図があると思いました。

**山本：**ありがとうございます。もうお一人伺いたいと思います。山下先生のペアでお願いします。

**山下：**私は予備校でバイトをしていたことがありまして、大学は教養と専門をT字型に広げていくところだと思いますが、予備校はあくまで受験のためのところというのが、目的からの一番大きな違いだと思います。その分、大学の授業は深みが必要であり、ゼミ等様々な科目がありますが、予備校は大人数授業で、テクニック、システム、効率的というところがありますので、その辺りは詰め込みの部分も含めて、大学の授業とはスタイルが大きく違うと思います。

あとは、教員が教えるプロかどうかという点も大きく違います。つまり授業という点に絞っても違うと思います。大学の教員は研究の専門家ですが、教えるプロではない方もいらっしゃいます。他方、予備校は分給いくらでやっていますので、教えるプロばかりだと思います。

また、先ほど出ましたが、学生の学び合い等のプロセスは、大学の方が断然大事にしていると思います。ありがとうございました。

**山本：**ありがとうございます。もう少し他の方にもお話を聞いていきたいのですが、時間の都合上、割愛させていただきます。



今挙げていただいた点は、皆さんもお挙げいただいているのではないかと思います。先生方が的確な答えを挙げてくださったので、私からのフォローは特に何もありませんが、やはり大学の授業は、先ほど挙げていただいた、学生の考える力の育成や問題を設定することができるようにすること等が、大事になってくると思います。

この点を踏まえて、次に進めます。大学の授業は、先ほど先生方に挙げ

ていただいた自発的な学び等、学びのプロセスを大事にして学生が問題を自ら発見するということに特徴があり、予備校とは違うということだったと思います。

そもそも大学はどういった点で授業を構成して、そして大学はどういう場であるのかを今一度確認させていただきたいと思います。

このスライド【スライド6】は、本学が育成したい人材像を示しております。立教大学は、「共生」「真理の探究」「真理を人間や社会のために生かす」という教育理念のもと、現象にとらわれず、常に本質に迫るという場でありたいということで、「専門性に立つ教養人の育成」を目指しております。つまり、ここでもう一度、ご一緒に確認させていただきたいのは、大学は研究の場でもありますが、人材育成の場でありまして、それはまた建学の精神あるいは大学の理念にある、人材を育成する場と本WSでは捉えたいという点です。

そして、大学の授業とは、先ほどから話しております通りの図解ですが、このように【スライド7】なっていきます。こちらは、私たちが担当する1つひとつの授業の上にはカリキュラムがあり、その上には教育理念、育成したい人材像があり、そこから各授業の目的も到達目標も、立教大学がどういった人材を育成したいのかを頭にイメージしながら作っていくことが肝要になります。

## 2. シラバスとは何か？： 授業の目的、到達目標の書き方

山本：さて次は、ベテランの先生もいらっしやる中で申し訳ありませんが、本WSは初任者の先生を照準にしていますので、「シラバスとは何か？」と教育目標について、皆さんと一緒に考えたいと思います【スライド8】。

15回の授業は、「授業後に学生にどうなっていて欲しいか」という教育の目的を達成するための到達目標が達成されるように、現在の学生の状態と授業後の学生のあるべき姿のギャップを埋めるものです。この点を踏まえて、教育の目的、到達目標を明確化し、それに至る授業内容と評価の方法を記したものがシラバスです【スライド9】。この点を今一度押さえたいと思います。

それでは、ワークに入ります。次のワークシートの2枚目をめくっていただいて、先生方が担当されている授業を1つお選びになって、授業名とその授業の



【スライド6】

## 立教大学が育成したい人材像

- ✓ 理念: 道を伝えて己を伝えず  
「共生」「真理の探究」  
「真理を人間や社会のために生かす」
  - ✓ 自由の学府: 現象にとらわれず, 常に本質に迫る
  - ✓ 専門性に立つ教養人の育成
- 大学は建学の精神, 理念にある人材を育成する場

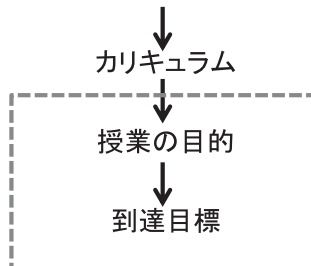
© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

6

【スライド7】

## 大学の授業とは？

建学精神, 理念にある, 育成したい人材像



© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

7

【スライド 8】

## 目次

### 【1部】

1. 大学の授業とは何か？
2. シラバスとは何か？：授業の目的, 到達目標の書き方
3. アクティブラーニングとは何か？：ALの定義
4. グループワークの手法
5. アクティブラーニングの評価：ルーブリック等紹介

### 【2部】

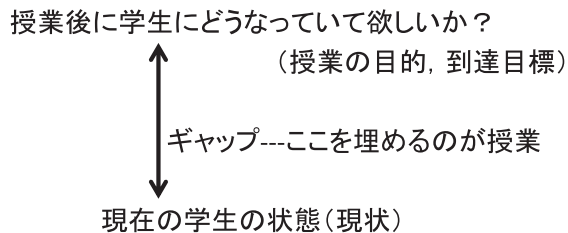
1. グループワークの手法のフォーカス：ジグソー法等

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

8

【スライド 9】

## シラバスとは何か？



授業の目的, 到達目標を明確化し, それに至る授業内容と評価の方法等を記したもの

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

9

## 【スライド 10】

## 授業目的と到達目標の書き方

### 問い：

自分の担当されている授業を1つ選び、授業の目的と到達目標を書いてください。

→授業を担当されていない場合は、大学1年生対象「スタディスキル」(架空の科目)としてください。この科目は、レポート・論文の書き方、議論の仕方、プレゼンの仕方、文献研究の仕方を学ぶものとしませぬ。【3分】

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

10

目的と、到達目標を3～4点書いてください。授業は、これだったらシラバスを書きやすい、書き慣れている、書きごたえがあるというものを選んでください。それでは3分間をお願いします。現在授業を担当されていない方は、こちら【スライド 10】にお示した、大学1年生対象の架空の科目「スタディスキル」の授業目的と到達目標を書いていただければと思います。

### 【個人ワーク】

山本：いかがでしょうか。お書きいただけたでしょうか。到達目標は1つでもいいのでお書きいただければと思います。そうしましたらその辺で止めていただきまして、今度は4名の先生方で意見交換をしてください。「こんなふうに書けたよ」「この辺が書くのが難しかったな」という点をお話してください。ちなみにこの手法は、4名でやっていますが、Bazz Groups という手法で、配布資料の「ALの手法」の上から5番目にあります。

それでは、4名で書き方の難しかった点、あるいはこの辺は簡単だった点をシェアしていただけますでしょうか。お時間は2分程度をお願いします。

## 【グループワーク】

山本：それでは、2分経ちましたので、シェアをストップしてください。本来ですと、ここで皆さんにシェア内容を聞くというやり取りをしたいところですが、時間の都合上、グループでシェアしていただきましたので、次に進めます。

ここで皆さんに書いていただいた、教育目的と到達目標の書き方のティップス (Tips) をご紹介します。まずは、目的と目標の違いですが【スライド 11】、目的は中長期に渡る目当て、狙いです。他方、目標は目的よりも具体的です。目的の方が目標より抽象度の高いものになります。したがって、この図解にあるように【スライド 9】、こちら (スライド 9 の下方) に現状の学生の状態があり、その授業が終わった後に学生にどうなっていったら欲しいかという目的 (スライド 9 の上方) に向けて、つまりワークシートの記入欄には何のためにこの授業をするのかという目的を書いていただいて、目標の欄にはできれば定量的に測定できる目標を書いていただくということになります。定性的な目標もあると思いますが、それらの定性的目標もできるだけ測定できる指標等に換えていきます。そうした方が授業や学習の改善につながりやすいです。それでは、先生方ご自身のそれぞれの到達目標を少し見ていただいて、ご覧のように【スライド 12】書き換えていただくと良いと思います。

書かれた文章の主語と述語を点検してください。主語は「学生が」という風に学生を主語にして、動詞は「〇〇できる」という風に到達目標を書いてください。授業の目的的文章も、主語は「学生が」としてください。よろしいでしょうか。こちら【スライド 13】になります。主語は「学生が」、述語は「〇〇できる」と書くことで、学生が何をしたら到達目標を達成し、授業の目的に達することができるのかが明確になります。到達目標を設定する3原則は、具体的、現実的、測定可能であると教育工学の領域で言われています。そして、到達目標で考慮する3領域は、知識に関すること、態度に関すること、こちら技能 (スキル) に関することという風にバランス良くあることが望ましいです。科目によってはなかなかバランスが取れないものもありますが、今後のご参考になさってください。

教育目標と到達目標の記述例として、「スタディスキル」という科目を想定して作ったものがこちらです【スライド 14】。到達目標は、1つの授業で多くて

【スライド 11】

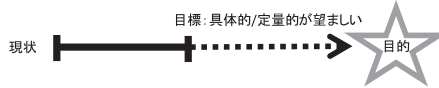
## 「目的」と「目標」の違い

✓**目的**: 中長期に渡る目当て. 狙い.

→比喩: 北極星, 使用例: 人生の目的

✓**目標**: 行動を進めるにあたり実現・達成をめざす水準.

→比喩: マイルストーン, 使用例: 目標を達成する



© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

11

【スライド 12】

## 「到達目標」の書き方

・文章の「主語」はどうなっていますか？

・文章の「述語」はどうなっていますか？

▼「教育方法論」の例

× 主語: 教員	○ 主語: 学生
授業デザインの構成について説明する.	<u>学生</u> が授業デザインの構成について理解し, 授業を設計 <u>できる</u> .

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

12

## 【スライド 13】

# 「到達目標」の書き方

## 1. 到達目標の、主語と述語

- 主語は「学生が～」
- 述語は「～できる」

## 2. 到達目標を設定する3原則

1. 具体的であること
2. 現実的であること
3. 測定可能であること

## 3. 到達目標で考慮する3領域

1. 知識(あたま)
2. 態度(こころ)
3. 技能(からだ)

© 2015 立教大学 大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

13

3～4つです。

こちら【スライド 15】も実際の記述例ですが、例えば「統計」なら、「データやその解釈を批判的に検討できる」となります。ここには「学生が」という主語が記述されていませんが、全て学生を主語にして書かれたものです。

さて次は、教育目的と到達目標を書いた後の、授業デザインにはどのようなポイントがあるかをお話したかったのですが、後で配布資料をご確認ください【スライド 16】。ここでは、最低限の授業デザインのポイントとして、毎回の授業では、学生にこの授業回で何を学んで欲しいかというメッセージ、ラーニングポイントを明確化するというところだけお伝えしたいと思います。

## 【3. アクティブラーニングとは何か？：AL の定義

山本：それでは、アクティブラーニングとは一体どのようなものかという本題に入ります【スライド 17】。

こちら【スライド 18】は、現在の日本を取り巻く環境を図解したものです。日本は世界で最初期に高齢社会に突入します。またグローバル化、IT 革命等々

## 【スライド 14】

## 記述例(スタディスキル)

### 【教育目的】

新入生が大学で学んでいくための基本的なスキルを身につけることを目的とする。具体的には、授業を受けて学習を進めていくためのスキル、図書館や情報端末を利用して学習に必要な情報を入手するスキル、レポートの書き方、グループでの議論の仕方、プレゼンテーションのスキルを実習しながら修得する。

### 【到達目標】

- ・文献検索を行い、一定レベルのレジュメを作ることができる。
- ・レポートの構成要素がわかり、一定レベルのレポートを書くことができる。
- ・根拠を示し議論を組み立て、ディスカッションすることができる。

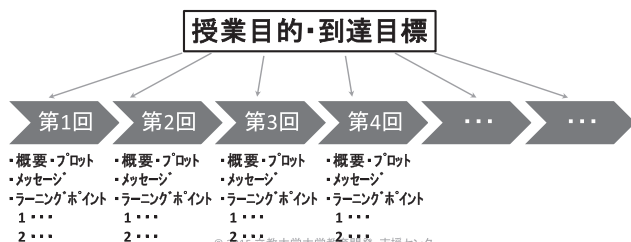
## 【スライド 15】

## 「到達目標」記述例

- ・データやその解釈を批判的に検討できる。(統計)
- ・基礎知識とコミュニケーションスキル(表現、文法、流暢さ、プレゼンテーションスキル)を用いて、短い口頭・文章表現ができる。(語学)
- ・提示された化合物の構造を特定できる。(化学)
- ・良い授業の構成の仕方が分り、指導技術を身に着け、授業を行うことができる。(教育)

## 各授業のデザインのポイント

- 授業目的・到達目標から、授業全体の流れ・ストーリーを決める
- 各授業の概要・プロットを決め、メッセージ+ラーニングポイントを明確化する



© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

16

## 目次

### 【1部】

1. 大学の授業とは何か？
2. シラバスとは何か？ : 授業の目的, 到達目標の書き方
3. アクティブラーニングとは何か？ : ALの定義
4. グループワークの手法
5. アクティブラーニングの評価 : ルーブリック等紹介

### 【2部】

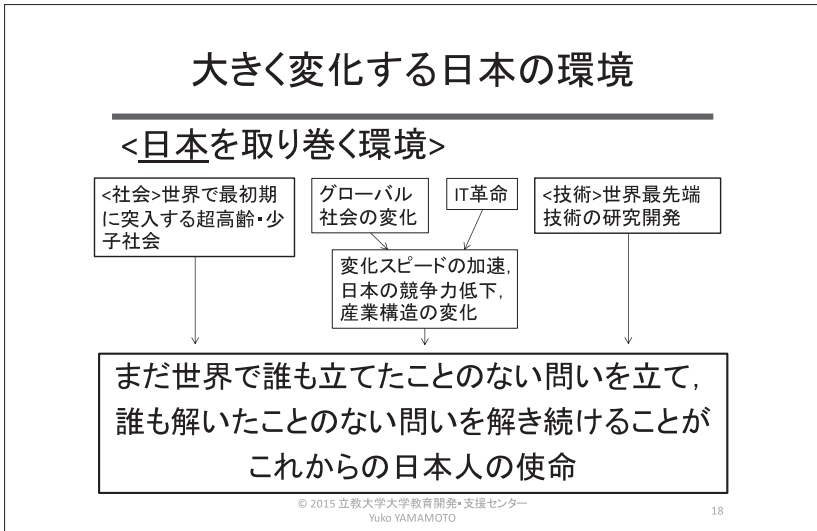
1. グループワークの手法のフォーカス : ジグソー法等

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

17



## 【スライド 18】



がある中で、まだ世界で誰も立てたことのない問いを立て、誰も解いたことのない問いを解き続けることが、これからの日本人の使命と考えられます。この日本を取り巻く環境を押えた上で、アクティブラーニングは一体何なのか、どう定義されているかをおさらいします。

まず、こちら【スライド 19】は中央教育審議会（以下、中教審）の答申から持ってきた最新の定義ですが、中教審では狭い意味の定義になっています。アクティブラーニングの広義の定義は後でお示しします。アクティブラーニングの狭義の定義では、日本の置かれた環境の中で、学生が主体性を持って様々な人々と協力して問題を発見して、問題を解いていく、能動的学習を指します。つまり、問題発見と課題解決型学習になります。アクティブラーニングのこの特徴は、先ほどグループワークで、先生方に大学の授業とは何かを答えていただいたものと整合しておりますね。つまり、先生方はこの研修に来なくても十分アクティブラーニングを理解されていたことということです。

さて、アクティブラーニングの狭義の定義はこのような意味ですが、他方、広義のアクティブラーニングとはどのようなものを指すかということ、「一方的な講義型授業以外の全てを指す」と言われております【スライド 20】。こちら【ス

## アクティブラーニングの定義【狭義】

学生が

- ・主体性を持って
- ・多様な人々と協力して
- ・問題を発見し
- ・解を見出してゆく



能動的学修

(中央教育審議会, 高大接続答申, 2014.12.22)

**スライド 20】**をお示したのは、ラーニングピラミッドで下方は動的学習で、アクティブラーニングによって学習内容の定着率がより高くなるので、アクティブラーニングの必要性があることを示しているためです。

これを押さえて、今後大学はどう変わるのかを考えてみたいと思います【**スライド 21】**。これまで、大学教育ではいわゆる概念的知識、宣言的知識である、what に関する知識の伝達が中心に行われてきましたが、これからは先ほどの日本の環境分析にもあったように、それらの知識に加えて課題を解決するという手続きの知識を授業でしっかり教えていく必要があるということです。

そして、アクティブラーニングの成功の秘訣【**スライド 22】**となる、学習者のマインドセットの説明をいたします。アクティブラーニングで授業を実施すると、必ず失敗や問題等、授業の中でいろいろ起こってきますが、そこを失敗・問題を良いことだと先生方が言って授業をやっていくと上手くいくというティップスです。つまり、学習者のマインドセットを前向きに持っていくということが重要です。

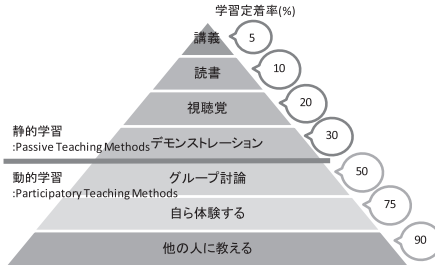
そして、こちらは【**スライド 23】**アクティブラーニングの広義と狭義の図解です。後ほど資料をご確認ください。

【スライド 20】

## アクティブラーニングの定義【広義】

教員からの一方向的な講義型授業以外全て。  
 宣言的知識・手続き的知識を問わず、学習定着率を  
 上げるのが目的。

「あらゆる能動的な学  
 習のこと。能動的な  
 学習には、書く・話  
 す・発表するなどの活  
 動への関与と、そこで  
 生じる認知プロセス  
 の外化を伴う」  
 (溝上, 2014)



教授方法と学習定着率のラーニングピラミッド  
 出典: アメリカ国立訓練研究所 (National Training Laboratories)

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
 Yuko YAMAMOTO

20

【スライド 21】

## 大学は今後どう変わるのか？

これまで

宣言的知識\*1の伝達

これから

宣言的知識の伝達

+

手続き的知識\*2の育成

\*1 know whatに関する、概念的知識。ピアノの楽譜を読む知識。

\*2 know howに関する知識。ピアノを弾く知識。

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
 Yuko YAMAMOTO

21

【スライド 22】

## アクティブラーニング成功の秘訣

「失敗・問題は良いことだ！」という姿勢

→失敗・問題は悪いこととされると、委縮して発言は極端に減ります(問題を隠す文化)。

失敗・問題を前向きに捉え、チャレンジ(失敗の可能性もある)に取り組ませ、成長を促しましょう。

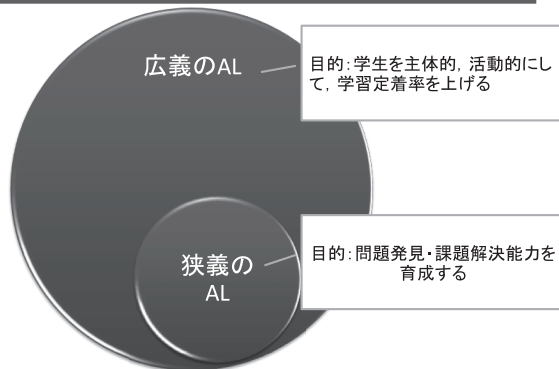
✓トヨタは「問題歓迎」「問題がないことは最大の問題」という文化を構築。かいぜん提案数は年間45万件超。

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

22

【スライド 23】

## 狭義と広義のアクティブラーニング



© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

23

## 【スライド 24】

## 目次

**【1部】**

1. 大学の授業とは何か？
2. シラバスとは何か？：授業の目的、到達目標の書き方
3. アクティブラーニングとは何か？：ALの定義
4. グループワークの手法
5. アクティブラーニングの評価：ルーブリック等紹介

**【2部】**

1. グループワークの手法のフォーカス：ジグソー法等

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

24

## 【4. グループワークの手法

**山本**：それでは、実際に具体的にグループワークの手法をご紹介します【スライド 24】。

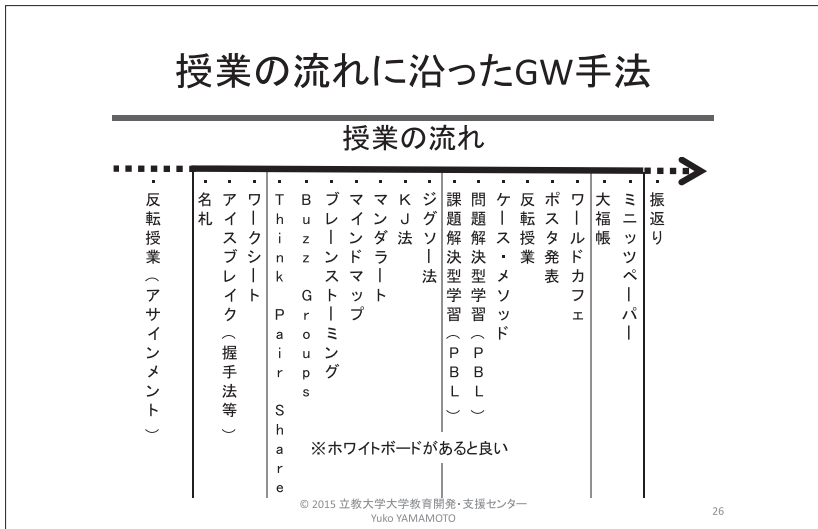
こちら【スライド 25】は様々なグループワークの手法を発散から収束という思考プロセスに沿ってまとめたものです。他方、こちら【スライド 26】はそれらを授業の流れでまとめたものです。授業で学生に考えを発散して欲しい時、収束させたい時、または実際の1回の授業時間の流れで授業の最初から最後までの間で、それぞれに合わせて手法を整理しました。状況に合わせてご参照の上、ご使用ください。

なお、これらのグループワークの手法を用いる時は、授業の目的に合致しているかや問いの立て方が最も重要です。つまり、狭義のアクティブラーニングでは、そもそも問題解決型学習をしますので、先生方が授業をデザインされる際に、学生に何をどんな風に学んで欲しいか、それをどう問いの形にして、学生に提示していくかが大事になります【スライド 27】。問題解決型の問いはオープンクエスチョンが望ましく、学生にとって身近な話題、あるいは具体的な問いを立て、

【スライド 25】



【スライド 26】



## 【スライド 27】

## 問いの立て方

具体的な問いには具体的な回答が、  
抽象的な問いには抽象的な回答が返ってきます

### ・問いの設計

1. この授業のプロット・ラーニングポイントは何か？
2. この問いで学生に何を考え、回答してもらいたいのか？
3. その思考を引き出す的確な問いは何か？

### ・問いの種類

- ・ クローズドクエスチョン・・・回答がYes/Noになる
- ・ オープンクエスチョン・・・具体的・身近な事から質問

問いの集まり＝授業. 良い質問は良い授業をつくる.

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

27

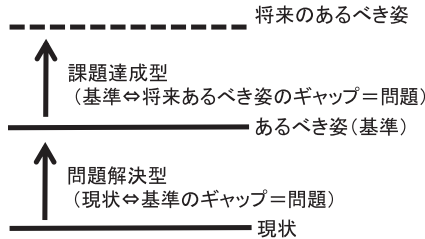
それを基に授業を作っていくことが、成功の秘訣です。

こちら【スライド 28】は、そのアクティブラーニングのなかでも PBL (Project/Problem Based Learning) やケースメソッドの方法が、その背景にどのような考え方があるかという説明です。先ほどお話した、教育目標の書き方と考え方は同じです。まずあるべき姿があって、それに対する現状があって、その間のギャップを埋めていくというものです。それが問題解決型学習です。そして、さらに問題解決の上を目指す場合は、課題達成型です。こちらはそのステップです【スライド 29、30】。

それでは、実際に先生方にマンダラートという手法をしていただきます【スライド 31】。配布資料にある「マンダラート」と書かれた、B4 のワークシート 2 枚を用意してください。各グループの机の真ん中からお好きな色の付箋を取っていただき、ペンも好きな方の色を取ってください。付箋の 1 枚目に「学生にとってよい授業とは、どんなものか？」と書き、これをマンダラートの一番真ん中のセルに貼りつけていただけますでしょうか。真ん中に貼っていただいた「学生にとってよい授業とは、どんなものか？」に対する先生方一人一人が思う答えを、思いつく限りと言いましても 8 個ですが、8 個書いてマンダラートの真ん

## 問題・課題解決の種類と考え方

- ・PBL(問題/課題解決型学修)
- ・ケースメソッド

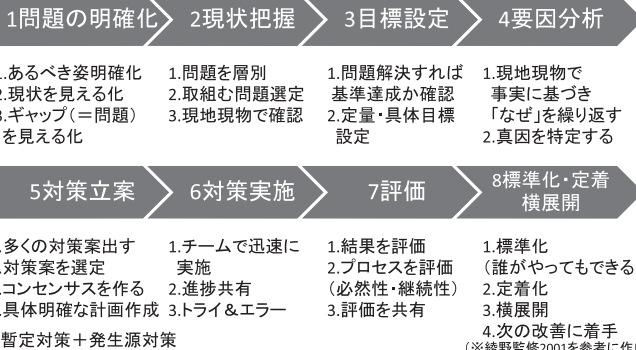


①あるべき姿を思い描き, ②現状とのギャップを埋める

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

28

## 問題解決型の8ステップ



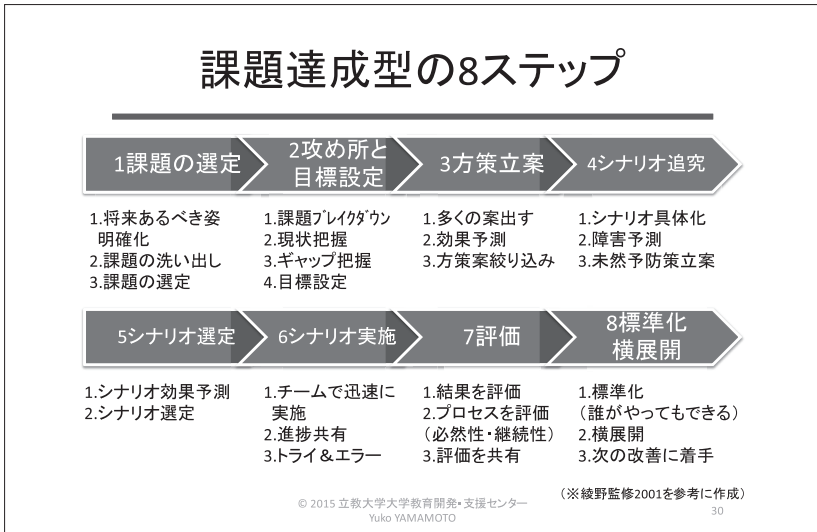
※ 暫定対策＋発生源対策

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

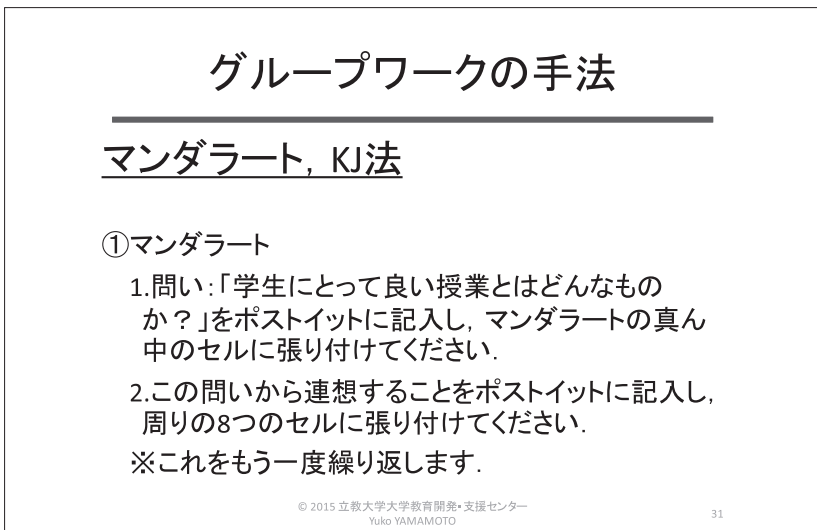
29



【スライド 30】



【スライド 31】



---

中のセルの周りの8つのセルに貼っていただけていただけませんでしょうか。もし答えにくいようでしたら、過去にご自分が受けた授業で良かった授業を書いていただくと、少なくともお書きいただいた先生にとってはいい授業になると思います。

このマンダラートは、思考を連想ゲームのように発散させる方法です。それでは始めてください。

そろそろ1部終了のお時間となりました。1部で帰られる方は、アンケートをご記入いただいておりますら、出入り口にいる係にお渡しください。

### 【個人ワーク】

**山本：**次は、1枚目のシートを終わられた先生がいらっしゃいましたら、1枚目の8つの周りに書き込んだカードの中から1つを選んで、さらに2枚目のシートの真ん中にそれを貼って思考を発散させることに挑戦してみてください。実はこれを合計で8回することが、本来のマンダラートの発散手法です。1つを選んで、真ん中にまた置いてそれを問いとして、その真ん中に置いた問いから更に連想するものを書いていきます。そうすると思考が8倍に拡散されます。今回は時間の都合上1枚目だけの記入をお願いします。

### 【個人ワーク】

**山本：**それでは、ほとんどの先生方が1枚目のシートをご記入いただいたと思いますので、その辺りで止めてください。さて、各机にあるビニールの白いシートは、「どこでもシート」という商品名で、25枚入り2,600円ぐらいで販売されています。授業でホワイトボードがない時にその代わりになるもので、壁などの平らな場所に、静電気で貼りつけることができます。シートを机の上に置き、班の4名分の32枚の付箋を貼ってください。

そして、その32枚の付箋をKJ法（川喜田二郎法）という手法で分類したいと思います【スライド32】。この手法では、似たもの同士のカードで、グルーピングして島をつくっていただきます。KJ法の手順はお手元の配布資料をご参照ください。4人の先生方で力を合せて、合計32枚の同じカードを似たもの同士でグルーピングをして、貼りつけてください。

## 【スライド 32】

## グループワークの手法

### ②KJ法

1. マンダラートで作成した最初の用紙1枚にある, 8つのカードをグループ4人分集めてください。
2. 合計32枚のカードを同じもの同士でグルーピング化し, どこでもシートに張り付けてください。
3. グルーピング化した束にカテゴリ名をつけ, 書いてください。
4. カード数の相違やカテゴリ間の関係性について各グループで議論し, 意見をまとめてください。

### ③発表: グループの意見を発表してください。(2gr.)

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

32

そして、グルーピングした付箋の束にカテゴリの名前、つまりその島の特徴をよく表す名前を書いてください。そして島と島の関連性を考え、線や点線を引いたりして考えてください。例えば、島と島の関係が強力な時は太い線ですまないでください。学生にとって良い授業というのは、一体どういふものなのだろうかという問いを考えながら、マッピングをお願いします。

また、各グループの番号が書かれた紙が各テーブルに置いてありますが、その番号をシートにご記入ください。マッピングが終わりましたら、横の壁に貼って、クラス全員でシェアをしたいと思います。それでは進行役の先生を決めて進めてください。

ここで、授業がある先生はどうぞご退席ください。また、休憩は適宜取りながらグループワークを進めてください。

### 【グループワーク】

**山本:**付箋の束が、だいたい同じものが集まってきたという段階になりましたら、ペンを使って丸で囲ってカテゴリ名をつけてください。カテゴリ名はきちんとし

---

たものでなくて構いません。マッピングは、先生方の4人の頭の中だと思って、整理していただけたらと思います。

### 【グループワーク】

**山本：**それでは、あと8分ぐらいでまとめていただいて、完成したチームはシートを壁に貼りつけていただけますか。

### 【グループワーク】

**山本：**完成したチームは、後ほど全体に発表をしてクラスでシェアをしたいと思っておりますので、どういう内容を抜粋して発表するか、誰がお話しするかを決めてください。発表時間は、1グループ1～2分程度で話せるように、グループでご相談ください。

### 【グループワーク】



**山本：**それではあと3分でまとめて、シートを壁に貼ってください。シートを貼り終えた班の先生は、他の班がどんな内容のシートになっているかを見て回ってください。ポスター発表の要領をお願いします。それではあと30秒をお願いします。発表者を決めてください。

### 【グループワーク】

**山本：**それでは、グループの意見を発表していただきます。資料には発表は2グループとありますが、せっかくなので8グループ全部に発表をしていただきます。それでは1班の先生からお願いします。

**1班：**1班のKJ法の結果ですが、中心として発展的学習や主体的学習と我々が名づけた部分です。一番多くのカードが集中して、その周りに授業環境であるとか、新しい知識を身につける授業そして、満足感、達成感がある授業というのが、良い授業ではないかという形にまとまっています。

**山本：**ありがとうございます。それでは、次の班の先生、お願いします。



**3班**：3班です。知識系がぐるっとある感じで、他のグループを拝見して、少し特殊かなと思ったのは、他の授業との関連が割と出ているところです。例えば学生がもともと関心があったもの、あるいは関心がなかったところを開いていくもの、あるいは身の回りのことに気づかせるものなど、他の授業との関連が今回は出てきています。単位を楽に取れる授業というのもあるのですが、授業の環境維持も含めてこのような感じになっております。

**山本**：ありがとうございます。

**6班**：それでは6班です。私たちは大きく5つのグループに分けました。他のグループとかぶるところはありますが、1つめにももちろん良い雰囲気作りで、学生の学びやすい雰囲気を作るにはといるところがこれです。2つめは、自分の成長と教室内での学びを結びつけるということで、学びで自分が成長していくその先へ向かっていくかどうかというところ。それから、3つめは更なる自己成長を発動できる授業であり、なおかつバリデーション (Validation) は、これは私が変わりてこたわるところなのですが、そういう自分自身が教員であれ、他者であれ、特に私の授業は、外に出てフィールドワークもするので、そこでバリデート (Validate) される経験というものを本人が持てるかどうかということです。そ



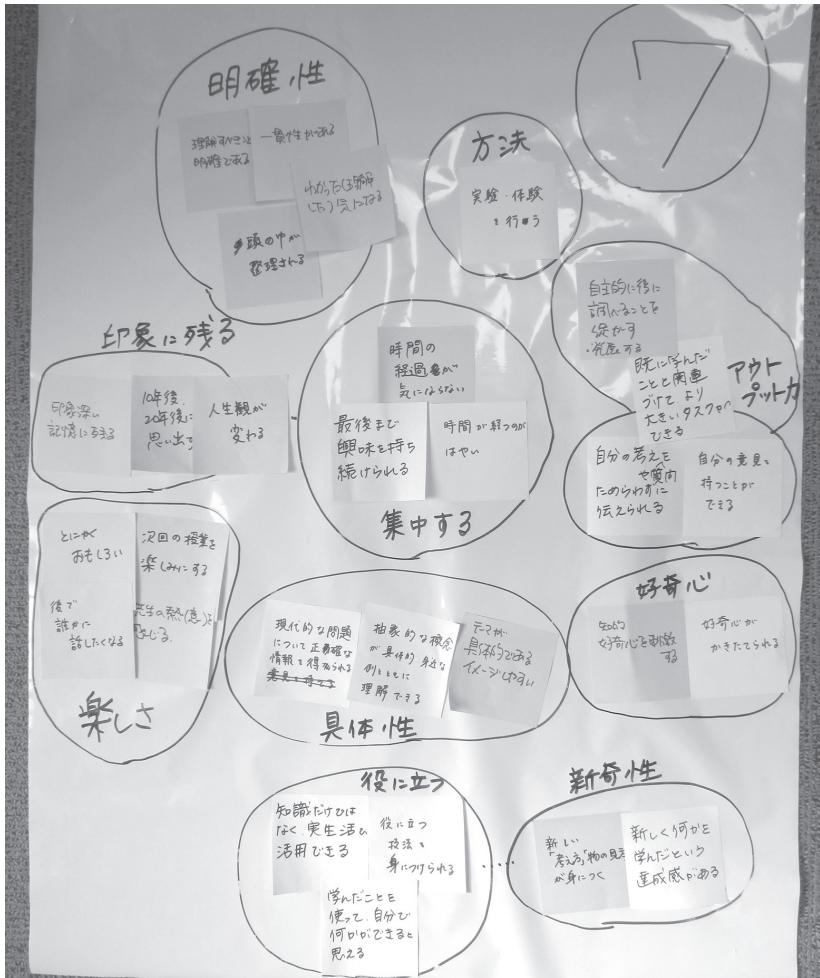
して、4つめはスキルを身につける授業であるかどうか、すなわちスタディスキルも含めて。私はライフスキルも結びつけられると思っていますが、スキルを身につけられるかどうかです。5つめは他者とのつながりの中での学びや、教員、クラスメート、それから学外の人々との深い対話ができたと考えるかどうかという点です。仲間と協力して学びが進められたかどうかというところをグループ分けしてみました。

**山本：**ありがとうございます。

**5班：**もう、だいたい出尽くしたところですが、私たちの班が特に重視したいのは、アカデミックの成果以外のところで友達作りの場を提供するということです。最近人間関係を取り結ぶのが苦手な学生さんが多いので、既にできている人間関係の壁を越えて、友達づくりの場、あるいは師匠と呼べる人に出会える、そういう場を提供できればと思います。

**7班：**7班です。思いつくまま、カテゴリをわりと細かく出しました。こうしてまとめてみますと、まずはその授業自体で、学生が集中できる、楽しく学べる、具体性がある、新奇性があるといった、リアルタイムの要素が挙がりました。そして授業で身につけた力を使ってアウトプットができる、そういう力を身につける、つまり自分の意見を持つことができる、自主的に後で学習を広げることができるというところを1つのカテゴリにしました。さらに、将来的に印象に残る、さらには10年後、20年後に思い出せる、人生観が変わるというような内容で、現在の授業、そしてそれを使ってアウトプットができるような力、さらには将来的に役に立つというカテゴリも作りましたが、そういう実生活でも使える知識、力を身につけるといった意見交換をしました。以上です。

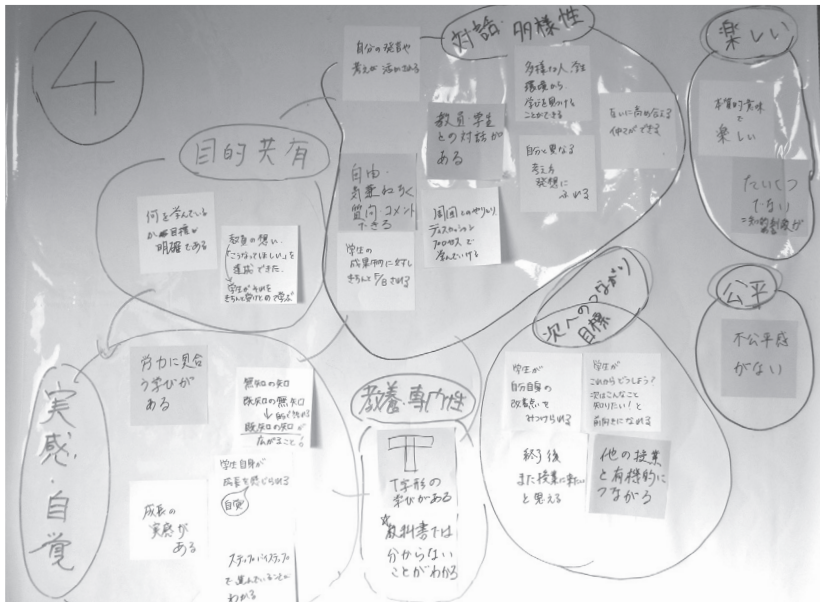
**8班：**8班です。私たちは結果的に4つのコンポーネントと、それらが集約した1つの結果というか、成果物が結果的にまとまりました。コンポーネントがそれぞれ影響し合って、集約してこれになります。教え方、教員の役割、学生の主体的参加、授業の空気、共同、共学の間、そしてそれらが集約して良い授業、例えば今までの疑問が解ける、新しい発見がある、複眼的に見る、お互いに考えや刺



激を分かち合う、楽しい、かつ知識が身につく、一生学んでいきたい、達成感というようにこういう授業にしたいとなりました。以上です。

**4班：**4班は目的共有、そして実感や自覚がある、対話や多様性がある、そして教養専門性があるという、最初に目的、教養のもとでこういった3つがあり、その次に、次へのつながり、目標や課題設定ができるような内容になっていることが大切なのではないかという話になっております。そして、全体として本質的に楽しく、





そして次へつながっていく期待があり、評価としてもきちんとした公平性が保たれている点も大切なのではないかと思います。以上です。

**2班:** 2班です。私たちの班では、学生にとって良い授業はどんなものなのかと考えた時に、これは端的に達成度を感じられる、また、将来に発展すると置き換えられる授業ではないかと考えました。そのためには、前提として授業のシステムが明解であること、また授業への学生の主体的な参加が可能になることがあると考えています。私たちの班の特徴としては、この特に授業への学生の主体的参加として、学生からは見えない点で、教員が学生の自主的な発見を促す、また授業でしか見られない資料を提示するという点があるのではないかと考えました。以上です。

**山本:** ありがとうございます。ご着席ください。

先生方のグループプレゼンは、学生にとってよい授業とは何かということの、ほとんどの要素をほぼ網羅していると思います。もしよろしければ、こちらのシートの写真を撮っていただいて記念にお持ち帰りください。

## 5. アクティブラーニングの評価： ルーブリック等の紹介

山本：それでは、アクティブラーニングの評価を少しお話しして、第2部の内容に入っていきます【スライド33】。

アクティブラーニングは、課題解決の問題発見、課題解決の思考力、それから、その手段、手続きを教えることですが、アクティブラーニングを取り入れて授業が変わっていく中で、評価はそのままがいいのかという問題があります。もちろん評価はそのままというわけにはいきませんので、工夫の必要性が出てきます【スライド34】。

例えば、先生方は既にも実施されているかもしれませんが、学生の発言点を質と量で測定し、3段階等で評価するという工夫があります。学生が回数を多く発言したら3点、2点…とすると、オブリゲーションをかけてしまっていますので、学生が発言するようになるというような仕方です。いわば少し強制的に発言させてしまいますが、その点のもう一つ、先ほど申しましたように、「発言はこのクラスの全体の学びに責任を持つんだよ」という点を全員で共有し、クラス全体が学び合う仲間という雰囲気作りをされると、学生が発言に積極的になれると思います。

それでは急ぎ足ですが、評価の工夫である、ルーブリックについて少しご紹介します。よろしくお願ひします。

谷村：大学教育開発・支援センターの学術調査員で谷村と申します。昨年度、当センターではレポートを評価するためのルーブリックのプロトタイプ版を作りました。それに関わった関係で少しだけ、私から説明を申し上げます。

お手元の資料、「論証型レポート・ルーブリック」をご参照ください。ルーブリックとは【スライド35】、ある課題の到達目標を、学生がどの程度達成できたかを評価する時に使う表です。ルーブリックでは、到達目標がいくつかの観点に分割され、その各観点について、達成状況がレベル別に記述されています。

当センターでは、初年次教育で使えるものとして、このルーブリックを作成しました。ここで評価の対象としているのは、単に調べてまとめる形のレポートではなくて、学生が自分で問いを立てて、答えを出すという「論証型レポート」です。

## 【スライド 33】

## 目次

---

## 【1部】

1. 大学の授業とは何か？
2. シラバスとは何か？：授業の目的、到達目標の書き方
3. アクティブラーニングとは何か？：ALの定義
4. グループワークの手法
5. アクティブラーニングの評価：ルーブリック等紹介

## 【2部】

1. グループワークの手法のフォーカス：ジグソー法等

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

33

## 【スライド 34】

## アクティブラーニングの評価

---

授業が変わったのに、評価はそのままでいいの？

- 評価の工夫の必要性  
✓ 評価の観点を変更する。

例えば、

- ・発言点を、質・量の3段階で評価。
- ・評価項目（評価の観点）に「クラスの学びに貢献したか」等を加える。

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

34



つまり、資料で説得的に根拠づけをして、答えを出すレポートを評価する時に使うものです。観点は1～8、レベルは1～4までの4段階です。レベル3が一応及第点の「目標到達」で、レベル4が「卓越」の段階になります。

ルーブリックは、単に評価をする際に使うだけのものではなく、学生にフィードバックをする時にも活用できます。例えば「あなたの書いたレポートは、この観点については、レベル2のここに当てはまるよ」と伝えることが可能です。つまり、ルーブリックの記述を用いたフィードバックを行えば、うまく書けていないということが具体的にはどういう状況なのかということについて、学生の理解を促すことができます。ですから、ルーブリックのメリットは、客観的で効率的なフィードバックと採点ができる点にあるといわれています。デメリットは、なかなか作るのが難しく、一度作成しても何度も改善が必要で、そこに手間がかかるという点です。当センターでも複数の先生方と一緒に、時間をかけて作成しました。

この論証型レポート・ルーブリックは、どの学部の初年次演習でも使っていたできるように、汎用性を意識して作成しました。今後は、ご使用になる先生方にカスタマイズをしながら使っていただきたいと思っております。センターにお問い合わせいただければ、ルーブリックのWordファイルをお渡しします。ご使用後は、使いづらい点や改善案をセンターまでお寄せいただけると幸いです。今

## 【スライド 35】

## ルーブリックとは？

到達目標を達成できたかを評価するツール。

到達目標をいくつかの観点に分割し、各観点の達成状況をレベルに分けて記述した表。

	レベル 1	レベル 2	レベル 3
観点 1	→	→	→
観点 2	→	→	→
観点 3			
観点 4			

注) 観点数とレベル数、レベルの並び順、観点・レベルの行列配置は任意

### ●「論証型レポート・ルーブリック」のご紹介

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Hidehiro TANIMURA

35

回「プロトタイプ版」としているのは、先生方からのフィードバックをもとに、今後改訂を行っていく予定になっているからです。

それから、細かい点までお伝えし切れないので、刊行物のご案内をさせていただきます。昨年度、ルーブリックの実践にお詳しい先生方をお招きして、「学習成果の設定と評価」というシンポジウムを開催しました。その記録がすべてこの冊子（大学教育開発研究シリーズ NO.22 「学習成果の設定と評価：アカデミック・スキルの育成を手がかりに」）に収録されています。本日はこの会場の出口に置いておりますので、是非お手に取ってお読みいただければと思います。

**山本：**ありがとうございます。ルーブリックは、特に複数の先生で担当されるような初年次教育のスタディスキル系の授業で、レポートの採点の際に使われると、採点基準が一致して、非常にスムーズに評価できます。また、提出物等の採点を TA にある程度任せる大学もありますが、教員が評価の基準を示して TA に採点を依頼することもできるものです。

それでは、急ぎ足でしたが、これで1部を終わります。5分休憩を入れまして2部に移ります。

---

先生方は、第2部のグループ分けの表にしたがって、2部の開始前までにご着席いただければと思います。名札は持って移動してください。先生方が今持っておられる名札は、コピー用紙で簡単に作成できます。授業の際、学生自身に作ってもらって授業を進めると、学生の顔と名前が一致して、教員と学生の関係性が深まると思います。是非、ご活用ください。それでは、5分間の休憩をいたします。

<休憩>

# グループワークの手法のフォーカス：ジグソー法

## ◆2部

大学教育開発・支援センター 学術調査員  
山本 裕子

### 【グループワークの手法のフォーカス：ジグソー法】

山本：それでは、2部を始めます【スライド 36】。ご着席のグループは、今後最後にまた一緒に協働するチームです。今から「ジグソー法」というグループワークを行います。

それでは、新しいグループになりましたので、また「握手法」をお互いにペアでしていきたいと思います。まずお隣同士で、自己紹介とここまでのワークショップの感想や、一番学びになったところ、わからないところについてお話しください【スライド 37】。

#### 【アイスブレイク：握手法】

山本：次にペアを換えて、お向かいの方同士でお願いします。

#### 【アイスブレイク：握手法】

山本：そこまで止めて、ご着席ください。今までのところでわからない点についてご質問が出てきたと思いますが、後ほどワークショップ後に直接私までご質問いただければと思います。

それでは先に進みます。配布資料「ワークシート」を次にめくっていただくと「ジグソー法」の説明がありますので、ご覧ください。

ジグソー法は【スライド 38】、グループワーク、アクティブラーニングの手法の一つで、学習理論を基に作られています。エリオット・アロンソン (Elliot Aronson) という米国の社会心理学者によって、人種融合政策の教育手法として開発されました。米国では 1970 年代白人と黒人の子どもが一緒に学ぶよう

【スライド 36】

## 目次

### 【1部】

1. 大学の授業とは何か？
2. シラバスとは何か？：授業の目的，到達目標の書き方
3. アクティブラーニングとは何か？：ALの定義
4. グループワークの手法
5. アクティブラーニングの評価：ルーブリック等紹介

### 【2部】

1. グループワークの手法のフォーカス：ジグソー法等

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

36

【スライド 37】

## アイスブレイク

隣の席の人と握手をしながら，以下のことをお互いに伝えあってください。（1回：1分30秒×2）

- ✓ 自己紹介：氏名，所属，
- ✓ 「ここまでの感想，一番学びになったところ，わからないところ」

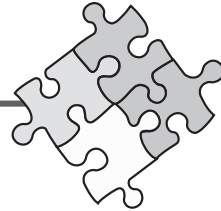
© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

37



## 【スライド 38】

## グループワークの 手法フォーカス



### ジグソー法

学習テーマ(問い)について

1. エキスパートグループで学ぶ【10分】
2. ジグソーグループで学ぶ(教え合う)【10分】
3. ジグソーグループで問いについて意見をまとめる【10分】
4. 全グループ全体発表(共有)【15分】

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

38

になり、その時子どもたちがお互いを認め合うようにという目的で考案された手法です。

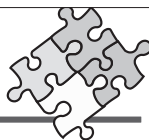
ジグソー法は、まずエキスパートグループ（専門家グループ）に所属します。そこで学んで、次にそのエキスパートグループを解体しまして、新しいグループで学んで教え合いをします。このエキスパートグループから、次のグループに変わるところが、つまりジグソーとなり、その次のグループをジグソーグループと呼びます。

それでは、これから4つのエキスパートグループに分かれていただきます。テーブルにある4つの資料（巻末の「2部で使用した資料」参照）のうち、どれでもいいので1つ取っていただけますでしょうか。資料は、企業のもの1つ（15社の祝辞が掲載された記事）と、大学名が書いてある3つがあります。資料に数字の番号が振ってあります（①15入社TOP語録、②東京大学、③国際教養大学、④早稲田大学）。その番号別にエキスパートグループに分けてください。

4つのエキスパートグループに分かれていただいて10分間、その大学、あるいは企業の、育成したい人材像について、資料を読んで学習してください。その後、ジグソーグループで、最終的に大きな問いに答えていただきます【スライド39】。

【スライド 39】

## ジグソー法



・問い

⇒立教大学が今後育成すべき人材像とその要素は何か？その人材を育成する具体的な施策を複数挙げてください。

・学習テーマ：大学が育成したい人材像、(=大学が新生に期待すること)、企業が新入社員に期待すること。

・学習教材：

3大学(東京大学, 国際教養大学, 早稲田大学)の式辞(2015年度), 企業15社の式辞ダイジェスト(2015年度)

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

39

その問いは「立教大学が今後育成すべき人材像とその要素は何か？」です。さらに、その人材を育成する具体的なプランについて、考えていただく流れになります。よろしいでしょうか。

それでは、まず各自で資料を読んでから、エキスパートグループで集まってください。資料をお読みいただく時、先ほど提示した問いに対して大事な内容は、赤線などでアンダーラインを引いていただくとスムーズに進むと思います。それでは、始めてください。

### 【個人ワーク】

**山本：**それでは、エキスパートグループで集まって、どんな風にジグソーグループで説明すると良いかということについてお知恵を出し合ってください。先生方は、今お持ちいただいている資料の大学・企業の専門家です。そのような想定で、ここに掲載の情報をよく吸収してください。次のジグソーグループでは、1人のエキスパートとして他のメンバーの問いに答える形で説明をしなければなりませんので、エキスパートグループでは、東京大学であれば「東京大学はどういった

人材像を育成しようとしているのか」あるいは「育成したい人材像に対して、どのような施策をとっているのか」という点を効果的に伝えられる説明の仕方、あるいはそのポイントとなる点を専門家同士で話し合ってください。

それでは始めてください。8分ぐらいで、専門家同士で知恵を出し合ってポイントをしぼって、こういうのがいいのではという点はメモを取ってください。話し合う内容は、こちら【スライド 39】に挙げている問い（学習テーマ）です。エキスパートグループの話し合い後に、ジグソーグループになった時には、立教大学のことについて考えますので、現在は各大学の専門家として「〇〇大の施策はこうだ、人材像はこうだ」というのを各グループで出して、企業担当のグループは「企業の求める人材像」を出して、その上でジグソーグループでは「立教大学はどのような人材を育成すべきか」を考えていただくようお願いいたします。

#### 【グループワーク：エキスパートグループ】

**山本：**残り3分です。各大学、企業の専門家として、わかりやすい説明の仕方や、あるいは各大学、企業のポジショニング等をまとめて考えてください。

#### 【グループワーク：エキスパートグループ】

**山本：**残り1分です。先生方はジグソーグループに移った時、東京大学、あるいは早稲田大学の専門家として、東大や早稲田、国際教養の姿勢や施策がどのようなものか、グループメンバーから聞かれた時に答えられるように、専門家としての意見を深めていただければと思います。また企業を担当のグループは、企業の要求する人材像について議論をしてください。

#### 【グループワーク：エキスパートグループ】

**山本：**それでは、エキスパートグループから各ジグソーグループにお戻りください。ジグソーグループにお戻りいただきましたら、早速、この2番と3番【スライド 38】について本来の20分は割けませんので、12分程度でお話してください。お戻りいただいたら、エキスパートの先生方はお互いに、東大の説明をする時は

---

東大の先生が進行役、早稲田の時は早稲田の先生が進行役になってください。そして、大きな問い、立教大学が今後大学として育成すべき人材像とその構成要素について議論をしてください。もし話し合う時間がなかったら、人材像まででも構いません。時間がございましたら、その育成に資する具体的な施策、授業でこんなことをしたら良いのではないかと等話し合ってください。もう既に文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援事業の採択結果が出ているので、申請調書等をお読みになった方はそれに引きずられるかもしれませんが、それとはまた別に、新しくその上を狙って、先生方には考えていただきたいと思います。それでは大変短いのですが12分をお願いします。

#### **【グループワーク：ジグソーグループ】**

**山本：**お話し中に失礼します。問いの答えは立教大学が育成すべき人材像です。施策までいかない場合は人材像までで構いません。シートにはジグソーの班の番号を記入してください。

#### **【グループワーク：ジグソーグループ】**

**山本：**それではそろそろ立教大学の目指すべき人材像を、施策までいなくても大丈夫ですので、各大学の事例を踏まえて立教大学の独自のもを書いていただけたらと思います。時間に余裕がある班は、それを実現するための施策まで書くことをお願いできると、今回のWSが課題解決型学習により近づくと思います。

ご使用のシートはホワイトボードと同じでクリーナーで消えますので、直接書いていただいても大丈夫です。付箋を使われた方が便利な場合は、付箋をお使いください。

#### **【グループワーク：ジグソーグループ】**

**山本：**残り3分になりましたので、人材像についてワンワードでも書いていただけたらと思います。

**【グループワーク：ジグソーグループ】**

**山本：**時間となりました。いかがでしょうか。まだ時間が足りないと思いますが、ただ今、当初の2部の終了時間になっておりますので、ご予約がある先生はここで退席なさってください。

それでは、各グループ、この問いに対する答えをまとめてください。なかなか施策までは難しいと思いますので、立教大学が今後目指すべき人材像を他大学と比較して、独自のものを、それでない生き残れないという視点に立って経営的視点を持っていただいて、どういった人材像かまとめていただいて、壁に貼ってください。立教ならではの、他の大学にはないものをお願いします。では、5分でまとめていただけますでしょうか。

**【グループワーク：ジグソーグループ】**

**山本：**お時間が足りないと思いますが、ここまででシートを壁に貼ってください。シートにはグループ番号をご記入ください。

**【グループワーク：ジグソーグループ】**

**山本：**壁にシートを貼られた班は、これがキーワードだというもの1つ選んで、色ペンで印をつけていただけますか。これがうちの班の特徴ですよ、売りですよ、この人材像ですよ、という点を挙げてください。

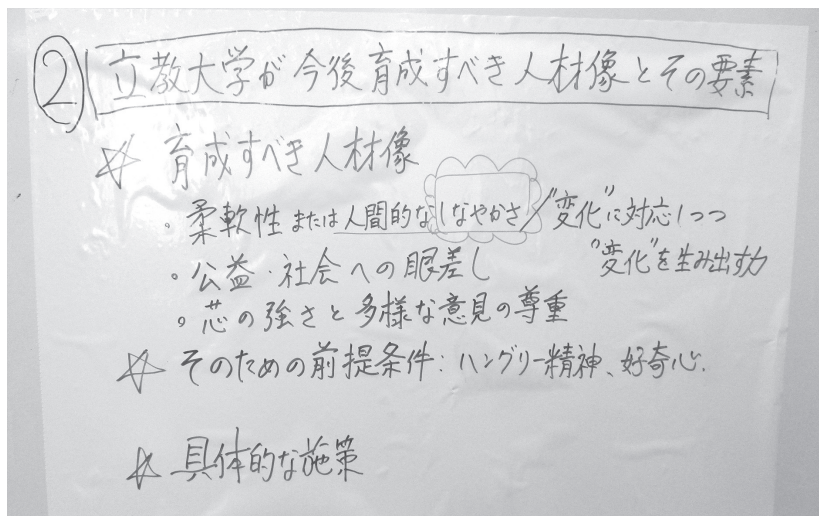
それでは、よろしいでしょうか。各班で貼っていただいたシートを全体に少し見渡していただけますでしょうか。見えない方は適宜近づいてご覧ください。お時間が無いなか、たくさんのワークをしていただきました。ありがとうございます。

ここで、全体でシェアしていきたいのですが、時間がありませんので3班ほど、ご発言いただけます。ランダムに発表をお願いしますので、当たったらどなたがご説明いただくかを班でご相談ください。それでは、こちらの班、こちらの班、こちらの班をお願いします。それでは2班の先生お願いいたします。

2班：2班では、立教大学が今後、育成すべき人材像とその要素ということで、人材像のみを挙げたのですが、一つは柔軟性または、人間的なしなやかさで、柔軟性という言葉のなかには、変化に対応しつつ、変化を生み出していく力。つまり既存のものを突破していく力ですね。そういうものが備わった人材を育成することが一つ。二つ目は、自分のことだけとか、自分の領域にとどまらずに公益とか社会に関心を持ってそちらにまなざしを向けられる力をつけるということ。三つ目が芯の強さですけれども、それは頑強に自分の意見だけにこだわるのではなくて、色んな人々の意見を尊重するという、そういうことを考えています。

立教大学のグローバル化とは、このシートにグローバルという単語は全然出ていませんけれども、一応このなかのいずれかが含まれているだろうということで挙げております。ありがとうございます。

山本：ありがとうございます。2班の先生方は、大変奮闘ながら、すごく良かった点は、この問いをシートに書いていただいたので、イシューが話し合っている間にずれていけないので、素晴らしいです。あと、公益性ですとか、非常に立教らしい像が出ているのが、さすが先生方だなという風に思いました。それでは次の班の方、お願いします。



**3班**：3班は人材についてはもちろん、態度としては、チャレンジする姿勢、多様な価値観、建学の精神に基づいてそれらを持って欲しいとか、スキルとしては英語も含め外国語を英語だけでなくもっと広く言っていきたいとなりました。批判的な思考力を持って問題解決、分析にあたって欲しいとかというものも出ました。学習の中では、リーダーシップを取るもの、協働するもの、そういう内容の授業等もやりつつ、施策としては、私は関西出身なのですが、立教生ってどうなんですかとグループの他先生に聞いたら、わりと大人しめで、やんちゃな人が少なく、上品だという話だったので、突き放さず手厚くやっているというやり方が立教には合うだろうという話になりました。他大学の早稲田の専門家からは、早稲田は放任主義的ではないかという話があったので。

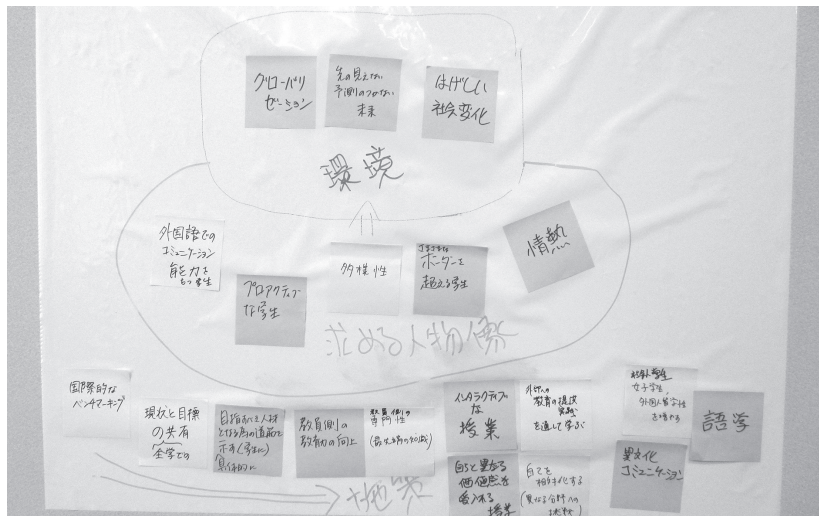
こういうのは、やはり周囲の教職員の多様性も大事だということで、私もNPO職員に関する兼任講師をやらせてもらっていますが、他にもいろんな人材集めを企業の方を含めてやっていくのがいいし、後は大学の中だけだと思われると思うので、社会との連携で池袋とか地域とか、他の地域に行っているというのは、いいことだと思っています。以上です。ありがとうございます。

**山本**：ありがとうございます。3班の先生方は非常に社会連携の視点が出てきていて、すごく素晴らしいです。また立教の学生のターゲット分析と言いましょか、学生の特徴を検討されているのが、私は早稲田出身ですが、本当に放任主義な校風ですので、素晴らしい分析だと思います。ありがとうございます。

**5班**：5班は、まずそれぞれの段階に共通して出てきていた環境認識、それからそこから導き出されるものを求める人材像。そこから、施策の具体的なところをいくつか目立っているところを挙げてということにしました。環境についてはやはり、激しい社会変化で先が見えない未来、予測がつかない未来、そしてグローバル化が共通に認識されているので、やはり求める人材像としては、それに対応して、自主性やプロアクティブに動くであるとか多様性やボーダーを越えるようなところ、それから情熱というキーワードが出てきているので、そういうものを持っている人材像を求めるべきでないかという話になりました。

施策については、ある程度プロセスで考えてやはり国際的なベンチマーキングを基にまずは全学で現状に対して、目標の共有をすることが大事なことではない

いかと。それにしたがって、やはり目指すべき人材像を具体的に示して道筋も学生に対しても示す。教員の方も能力を向上するようにする。それで授業や学生の多様性をつくっていくという話になりました。



**山本**：ありがとうございます。5班の先生方は、非常に上の環境分析のところから下ろしていただいて共通認識から人材像があって、そして施策というふうにはブレイクダウンをされていて非常にロジカルで皆で共有しやすいところがとても素敵なお点だと思いました。特に人材像がビッグワードになりがちなところを、施策のところでも具体的にされたところが、本当に素晴らしい分析だと思います。

それでは、他の班の成果も、全体で共有させていただきたいのですが割愛させていただきます。ワークショップ終了後に、見ていただくということをお願いいたします。

長時間にわたって進めて参りましたが、20分ほどオーバーしてしまい誠に申し訳ございませんでした。

ジグソー法は、何故ジグソーと言うかはお気づきだと思いますが、ジグソーパズルのように組み合わせさせて、グループのメンバーがお互いに認め合いながら、特に小・中学校ですとなかなか発言ができない少し引っ込み思案な子どももエキスパートになることによって話すことができますので、この点に利点がある手法



です。

さて、本日、先生方にお示した手法は、配布資料「ALの手法」に記載したものです。全てをご紹介しきれれておりませんが、手法名と使用法を記載しましたので、そちらをご覧ください。もし質問などがありましたら、センターの連絡先も記載しておりますので、そちらにご連絡ください。

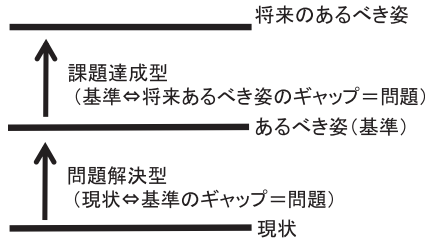


最後ですが、本WSで先生方に取り組んでいただいたワークは、先ほどもお示したこちら【スライド40】の内容で、立教の現状からあるべき姿を捉えるということを行いましたので問題解決型学習になります。そしてこの手順【スライド41】に従って解決案を提示していただいた形になっていたと思います。授業で学生の皆さんと問題解決型のプロジェクトをする時は、この問題解決型の8ステップを踏まれると非常にクリアにできると思いますので、ご参考になさってください。

それでは、最後にTL部会の幡野弘樹先生から閉会のあいさつをしていただきます。

## 問題・課題解決の種類と考え方

- ・PBL(問題/課題解決型学修)
- ・ケースメソッド



①あるべき姿を思い描き, ②現状とのギャップを埋める

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

40

## 問題解決型の8ステップ

### 1問題の明確化 → 2現状把握 → 3目標設定 → 4要因分析

- |   |                                   |                                 |                                     |
|---|-----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|
| 1.あるべき姿明確化<br>2.現状を見える化<br>3.ギャップ(=問題)を見える化 | 1.問題を層別<br>2.取組む問題選定<br>3.現地現物で確認 | 1.問題解決すれば基準達成か確認<br>2.定量・具体目標設定 | 1.現地現物で事実に基づき「なぜ」を繰り返す<br>2.真因を特定する |
|---|-----------------------------------|---------------------------------|-------------------------------------|

### 5対策立案 → 6対策実施 → 7評価 → 8標準化・定着横展開

- |  |                                    |  |  |
|--|------------------------------------|--|--|
| 1.多くの対策案出す<br>2.対策案を選定<br>3.コンセンサスを作る<br>4.具体明確な計画作成 | 1.チームで迅速に実施<br>2.進捗共有<br>3.トライ&エラー | 1.結果を評価<br>2.プロセスを評価(必然性・継続性)<br>3.評価を共有 | 1.標準化(誰がやってもできる)<br>2.定着化<br>3.横展開<br>4.次の改善に着手<br>(※綾野監修2001を参考に作成) |
|--|------------------------------------|--|--|

※ 暫定対策＋発生源対策

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

41

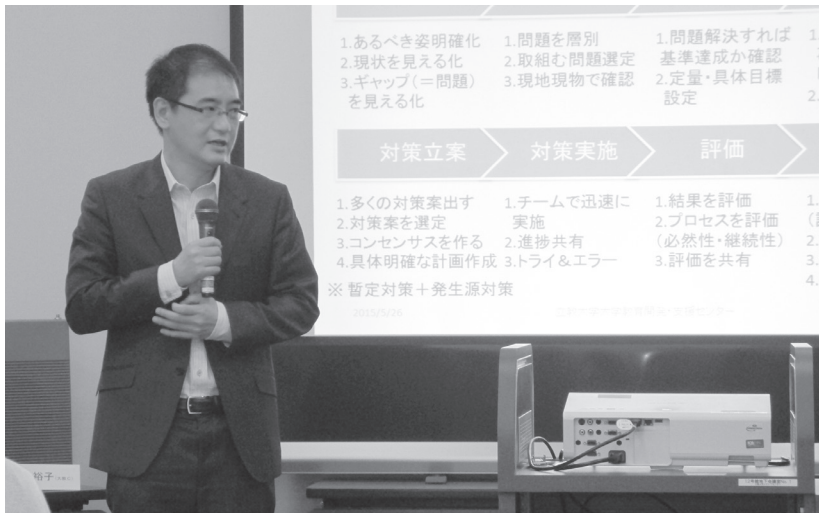
## 閉会挨拶

幡野：今日は長時間にわたってご参加いただきまして、どうもありがとうございました。

私は、このセンターに所属をしていながらも、アクティブラーニングとは何かということ全然知らない、まさに初心者として今回はいろいろ学ばせていただきましたが、アクティブにラーニングを実際にやってみるとこうなるということが体験できて、とても私自身ためになりました。先生方もそれぞれの観点で、いろいろと得られたものがあればいいなと思っております。

そして、やはり、こういうアクティブに学ぶ際には、参加者の先生方のご協力というものがどうしても必要になってきますので、今日は積極的にご参加いただきましたことを、この場でお礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

最後に、山本さんが朝4時にメールを送っていただいたりと、本当に今日を目指してすごく頑張っていたいただきましたので、最後に山本さんにも拍手をお願いします。どうもありがとうございました。お疲れさまでした。



---

山本：ありがとうございます。

それでは、今後の参考にさせていただきたいと思いますので、最後にアンケートをご記入いただきご提出いただければと思います。特に初任者の先生方は、授業でお困りの点などを書いていただくと、今後その点に関して何か企画をさせていただければと考えております。

それから、最後の追加情報ですが、学生とのコミュニケーションシートの「大福帳」のサンプルが配布資料の最後にありますので、ご覧になってください。こちらは、当センターの副センター長の小澤先生が実際に使っていらっしゃるもので、最後に学生さんが実際に書いた記入例と、小澤先生のコメントが載っております。

また、アクティブラーニングは、振り返り（省察）がとても大事です。授業でアクティブラーニングをされる時は、今日授業で学んだことは何なのか、この学びを次にどう活かすのかを学生が振り返るワークシートを用意して書いてもらったり、ラーニングマネジメントシステム（LMS）をお使いでしたら掲示板に書いてもらったり、メーリングリストを使うなら、各学生に振り返りをメーリングリストに流してもらったりして、学生が授業の学びを確実に振り返るようにマネジメントされると、更にアクティブで、そしてまた反転授業にもつながっていくという流れがあります。

それでは、長時間、お疲れさまでした。ありがとうございました。

(終了)

[スライド 42]

## 補足資料

---

▼日本を取り巻く環境

<p><b>Politics</b></p> <p>小さな政府(文部科学省含む) 競争的資金配分</p> <p>→大学の不断な教育研究改善の必要性</p>	<p><b>Economy</b></p> <p>不況 低い経済成長率</p>
<p>グローバル社会の変化(新興国の伸長)</p>	
<p><b>Society(日本)</b></p> <p>超少子高齢社会, 18歳人口減</p> <p>→多様な学生の入学</p> <p>大学の経営難 企業内教育(人材育成)の打ち切り</p> <p>→大学への人材育成要求, 社会人基礎力, 問題解決力の育成の要望</p>	<p><b>Technology</b></p> <p>情報技術の革新(IoT等) eラーニングの進化(Moocs, Coursera, edX)</p> <p>→まだ世界でどこの国も直面したことのない問題の発生</p>

© 2015 立教大学 大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

42

[スライド 43]

## アクティブ・ラーニング

(出典: 中央教育審議会, 質的転換答申, 2012.8.28)

---

**【本文より】**学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換

**【用語解説より】**教員による一方的な講義形式の教育とは異なり, 学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって, 認知的, 論理的, 社会的能力, 教養, 知識, 経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習, 問題解決学習, 体験学習, 調査学習等が含まれるが, 教室内でのグループ・ディスカッション, ディベート, グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

© 2015 立教大学 大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

43

## [スライド 44]

### 参考文献 NO.1

- ・ 赤堀侃司ほか(2007)授業を効果的にする50の技法:FD研修の時代に向けて、アルク
- ・ 綾野克俊監修QCサークル神奈川県地区課題達成研究会編(2001)課題達成マニュアル:改訂第2版、日科技連
- ・ バーバラ・グロス・デビス(香取草之助監訳、光澤舜明、安岡高志、吉川政夫訳)(2002)授業の道具箱、東海大学出版会
- ・ 大学発教育支援コンソーシアムCoREF <http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>
- ・ エリザベス・パークレイ、パトリシア・クロス、クレア・メジャー(安永悟監訳)(2009)協同学習の技法:大学教育の手引き、ナカニシヤ出版
- ・ 堀公俊、加藤彰(2008)ワークショップ・デザイン:知をつむぐ対話の場づくり、日本経済新聞出版社
- ・ 池田輝政、戸田山和久、近田政博、中井俊樹(2001)成長するティップス先生:授業デザインのための秘訣集、玉川大学出版部
- ・ The Jigsaw Classroom <https://www.jigsaw.org/>
- ・ ジョナサン・バークマン、アーロン・サムズ(山内祐平監修)(2014)反転授業、オデッセイコミュニケーションズ
- ・ 国際教養大学、式辞 [http://web.aiu.ac.jp/news/2015/04/08\\_14393.html](http://web.aiu.ac.jp/news/2015/04/08_14393.html)
- ・ 梶田毅一(2002)教育評価:第2版補訂版、有斐閣双書
- ・ 香取一昭、大川恒(2009)ワールド・カフェをやろう!:会話がつながり、世界がつながる、日本経済新聞出版社

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

44

## [スライド 45]

### 参考文献 NO.2

- ・ 溝上慎一(2014)アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換、東信堂
- ・ 文部科学省(2012)新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申、平成24年08月28日)
- ・ 文部科学省(2014)新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について(答申、平成26年12月22日)
- ・ 日刊工業新聞(2015/4/6)15入社TOP語録/日本郵船・内藤忠顕社長ほか
- ・ 名古屋大学高等教育センター編(2004)プロフェッショナル・スクールのための授業設計ハンドブック、
- ・ 立教大学、式辞 <http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/president/entrance2015>
- ・ 鈴木克明(2015)研修設計マニュアル:人材育成のためのインストラクショナルデザイン、北大路書房
- ・ 佐藤浩章ほか(2010)大学教員のための授業方法とデザイン、玉川大学出版部
- ・ 東京大学、式辞 [http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/b\\_message27\\_01\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/b_message27_01_j.html)
- ・ 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部付属教養教育高度化機構アクティブラーニング部門(2014)+15(Plus fifteen minutes.):How can we enjoy plus 15 minutes?
- ・ 早稲田大学、式辞 <https://www.waseda.jp/top/news/25597>
- ・ 安永悟(2012)活動性を高める授業づくり:協同学習のすすめ、医学書院

© 2015 立教大学大学教育開発・支援センター  
Yuko YAMAMOTO

45

## 【配布資料】

### [ワークシート]

FD ワorkshop「授業デザインとアクティブラーニング」

ワークシート

立教大学 大学教育開発・支援センターTL 部会

1. 「大学の授業」と「予備校の授業」の違いは何ですか？



簡条書きで違いをできるだけ書き出してください。

FD ワークショップ「授業デザインとアクティブラーニング」

ワークシート

立教大学 大学教育開発・支援センターTL 部会

**2.「授業の目的」と「到達目標」を書いてください。**

ご自分の担当されている授業を1つ選んで下記に記入してください。授業を担当されていない場合は、授業を担当されていない場合は、大学1年生対象「スタディスキル」(架空の科目)としてください。この科目は、レポート・論文の書き方、議論の仕方、プレゼンの仕方、文献研究の仕方を学ぶものとします。

科目名:

対象学年:

授業の目的:

到達目標

- 
- 
- 
-



## [配布資料]

FD ワークショップ「授業デザインとアクティブラーニング」

配布資料

立教大学 大学教育開発・支援センターTL 部会

### ◆グループワークの手法【発散】

**マンダラート**：今泉浩晃によって考案された。

- 意義（目的）：効率的にアイデアを連想する
- 使用場面：課題などに対して、その解決案などを考える時
- 教える側のポイント：アイデア・意見の広がりを助けるため、最初に与える問いを回答しやすいものにする。
- 所用時間：30分～
- 活動単位：グループ（3-5名）
- 準備物：紙、筆記用具（ポストイット）

#### 【手順】

1. 3×3のマスのシートを用意し、中心のマスの目に問い（テーマ）を書く。
2. 問い（テーマ）から連想するアイデアを周囲の8つのマス目に書き出す。
3. 新しい3×3のシートを8枚用意して、先の8つのアイデアをそれぞれ中心に書き、さらにアイデアを周囲の8マス目にそれぞれ書いていく。

参考文献：堀公俊，加藤彰（2008）ワークショップ・デザイン：知をつむぐ対話の場づくり。日本経済新聞出版社。

### ◆グループワークの手法【発想、収束、分析、構築】

**KJ法**：日本の文化人類学者川喜田二郎が考案、川喜田二郎のイニシャルより命名。

- 意義（目的）：意見、情報の整理・分析をして新たな発想を行う
- 使用場面：グループで意見を出し合い、それらを整理・分析する時
- 教える側のポイント：カードをまとめる際に、同じ内容のものをきちんと集められているかどうか確認して、全体で何が言えるか分析できているか確認する。
- 所用時間：30分～
- 活動単位：グループ（3-5名）
- 準備物：ホワイトボード（模造紙）、付箋、ペン

#### 【手順】

1. アイディアを書くための名刺大のカード、または付箋（ポストイット）を用意する。
2. 問いについてアイデアを1人で考え、カードに一文一義になるように記入する。
3. グループでカードを持ち寄り、広い場所にカードを広げる。
4. グループで話し合いながら、カードの関係するもの同士を集める。
5. そのカードのまとまりごとに内容を良く表すカテゴリ名をつける。
6. 全体のカード間の関係性を検討する。

参考文献：エリザベス・バークレイ、パトリシア・クロス、クレア・メジャー（安永悟監訳）（2009）協同学習の技法：大学教育の手引き。ナカニシヤ出版

FD ワークショップ「授業デザインとアクティブラーニング」

配布資料

立教大学 大学教育開発・支援センターTL 部会

## グループワークの手法【教え合い、深い理解】

**ジグソー法**：社会心理学者アロンソンが米国の人種融合政策を背景として編み出した。

- 意義（目的）：学生同士の話し合いを促進する、あるテーマ・課題に対して、深く理解する
- 使用場面：学生同士互いに話し合いをさせて、教え合うことから深く学ばせたい時
- 教える側のポイント：学ばせたいテーマ・課題をいくつかに分割して、教材を選ぶ際に、それが過不足のない適切な分割になっているか配慮する。
- 所用時間：30分～
- 活動単位：グループ（3-5名）
- 準備物：いくつかのテーマ・課題に分類された教材

## 【手順】

1. 教員は学習するテーマと、そのテーマを構成する話題（資料）を明示する。
2. 学生を同じ資料を読み合う「専門家（エキスパート）」グループに分ける。
3. 学生は「専門家」グループごとに、担当のテーマについて資料を読み込みしっかり理解し、内容を知らない他の学生に教える方法をグループで考える。
4. 学生は「専門家」グループから、新しい「ジグソー」グループに分かれる。ジグソーグループでは、それぞれの学生が以前の「専門家」グループで学習した内容についての唯一の「専門家」となる。
5. 「専門家」は、それぞれ「ジグソー」グループで自分の「専門分野」を他の学生に教え、その内容を話し合う時は進行役を務める。
6. グループでの学びについてクラス全体で振り返る。

参考文献・URL：The Jigsaw Classroom <https://www.jigsaw.org/>

エリザベス・バークレイ、パトリシア・クロス、クレア・メジャー（安永悟監訳）（2009）協同学習の技法：大学教育の手引き。ナカニシヤ出版

大学発教育支援コンソーシアム CoREF <http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>東京大学大学院総合文化研究科・教養学部付属教養教育高度化機構アクティブラーニング部門  
（2014）+15（Plus fifteen minutes.）：How can we enjoy plus 15 minutes?

[AL 手法]

	手法名	意義(目的)	使用場面
学生 - 教員 との関係作り	1 名札	学生を匿名の集団にしない。学生参加意識を高める。教員は学生の名前を覚え、インタラクションが増える。	授業(コース)の最初の授業で名札を作成。以後毎回持参してもらう。
	2 大福帳	学生を匿名の集団にしない。学生参加意識を高める。教員は学生の名前を覚え、インタラクションが増える。大福帳に学生の顔写真を張ると更に学生を覚えやすくなる。	授業(クラス)の最初に配布して、授業終了時に回収。次回授業時まで、教員が簡単なコメントをつけ、学生とコミュニケーションを取る。
個人 - 少人数 (4人以下) ワーク	3 ワークシート	学生が手を動かして授業を聞けるため、理解が深まりやすい。	学生は講義を聴きながら、配布されたワークシートを書いて埋めていく。
	4 Think Pair Share	講義内容について隣の学生同士で意見を共有	学生の反応が固い時、授業の進行に手応えがない時など、講義内容について学生に理解を深めてもらいたい時に使用する。
	5 Buzz Groups	講義内容についてグループ内意見の共有とクラス全体での意見共有	
グループ ワーク (拡散)	6 ブレーンストーミング	あるテーマ・課題に対して、多様なアイデアを得ることができる。	あるテーマ・課題に対して、できるだけ多くの意見を出したい時。
	7 マインドマップ	ブレーンストーミングの一種で、頭の中で思考していることを表現する(トニー・ブザンが提唱)	ある概念や事柄に関し、学生の思考を整理し、広げたい時に使用する。
	8 マンダラート	効率的にアイデアを連想する	課題などに対して、その解決案などを考える時
グループ ワーク (収束)	9 KJ 法	意見、情報の整理・分析をして新たな発想を行う	グループで意見を出し合い、それらを整理・分析する時
グループ ワーク (その他)	10 ジグソー法 (ジグソーメソッド)	学生同士の話し合いを促進する。あるテーマ・課題に対して、深く理解する。	学生同士互いに話し合いをさせて、教え合うことから深く学ばせたい時

教える側のポイント	所用時間	活動単位	準備物
教員・TASA が名札を管理して、座席指定に活用することも可能。	2～3分	個人	A4用紙 1人1枚 クリップ1人1つ、ペン
教員が毎回コメントをつけるのが困難な場合は、メッセージ付きのスタンプや自分の印を押しても良い。	5分～	個人	大福帳 (少し厚めのA4用紙 1人1枚)
学生にとって初めて習うことや馴染みの薄いことが多い場合、ワークシートを用意すると、学生は比較的楽にノートを取ることができる。	5分～	個人	ワークシート
ペア(2名)で意見交換をしてもらった後で、クラス全体に質問をすると意見が出やすくなる。	5～10分	ペア (隣同士2名)	紙、筆記用具
小グループ(3-4名)で意見交換をもらった後で、クラス全体に質問をすると意見が出やすくなる。	5～20分	グループ (3-4名)	紙、 筆記用具
できるだけ自由に発言できる雰囲気を作る。次の4原則を守らせる。 1) 他者の意見に批判禁止、2) 質より量、3) 自由奔放、4) 他者の意見に便乗してよい。	5分～	グループ、 クラス全体	紙、筆記用具
将来の計画などを伴うことを学ぶ時に使用すると効果的。	5～30分	個人	紙、筆記用具
アイデア・意見の広がりを助けるため、最初に与える問いを回答しやすいものにする。	30分	グループ (3～5名)	紙、筆記用具
カードをまとめる際に、同じ内容のものをきちんと集められているかどうか確認して、全体で何が言えるか分析できているか確認する。	30分～	グループ (3～5名)	ホワイトボード (どこでもシート、模造紙) 付箋、ペン
学ばせたいテーマ・課題をいくつか分割して、教材を選ぶ際に、それが過不足のない適切な分割になっているか配慮する。	30分～	グループ (3～5名)	いくつかのテーマ・課題に 分類された教材

[AL 手法]

	手法名	意義(目的)	使用場面
長時間のグループワーク	11 ケース・メソッド(ケース・スタディ)	ある事柄について具体事例から学ぶ	戦略など実践的な事柄に関して、実践的に学ばせたい時
	12 問題 / 課題解決型学習 Problem/ Project based learning (PBL)	ある問題 / 課題に関してそれを解決することを学ぶ	問題解決の手法を実践的に学んで欲しい時や解決したい問題・課題がある時
プレゼンテーション	13 ポスタ発表	興味を持った発表を見に行く	調査研究を行わせて、それをクラス全体で共有したい時。ゼミなどの研究活動の成果発表の時
	14 ワールドカフェ	全員と対話して議論をする	ゼミなどでプロジェクト型研究をしており、全員での議論を行いたい時
予習と応用実践	15 反転授業 Flipped Classroom	事前の予習で基本を学び、授業では応用力や実践力を学ぶ。事前の予習をアサインメント(課題、宿題)として、授業時にレポートなどを提出させると更に効果的。	知識を活用する応用力や現場で通じる実践力を身に付けて欲しい時
学生の振り返りを促す	16 ミニッツペーパー	学生の振り返りを促す。教員が学生の理解度を知り、自分の授業の改善に役立てられる	授業終了前 5 分前に配布して、質問を書かせたり、特定の問いを出して解答を書かせる
	17 振り返り	授業で学んだことをより強固にする	毎回のクラス終了時、またはコース終了時

教える側のポイント	所用時間	活動単位	準備物
学生の意見が出るように、適切な問いかけを行う。	60分～	グループ (3～6名)	ケース(事例)の教材
グループ分けに配慮し、問題解決の手順を教える。学生にとって身近な問題であるとより意欲的に学ぶ。	90分～	グループ (3～6名)	
発表提示資料やプレゼンテーションの仕方をしっかりと教える。	45分～	クラス全体	ポスタ
ポスタ発表に似ているが、より自由なカフェのような雰囲気作りに配慮する。そのために、お菓子や飲み物を提供しても効果的。	45分～	グループ (3～6名)	ポスタ メモ用紙(お菓子、飲み物)
学生がきちんと予習を行うように、アサインメント(宿題)を課し、提出の有無をチェックすること。ラーニングマネジメントシステム(LMS)を使用すると管理が容易。予習はICTを使うケースが増加。	—	グループ (3～6名)	LMS
最初に、ミニッツペーパーに1つ質問を書くようにした場合などは、学生が質問を考えるために授業をより集中して聴く。	5分～	個人	ミニッツペーパー
振返りシート等紙媒体でも、メールリスト等を使って提出させても良い。	30分	個人	振返りシート等

### [ループリック]

論証型レポート・ループリックとプレゼンテーション・ループリックについて、本学専任教職員・兼任講師の皆様には、ループリックの出力紙または電子ファイルを提供します。ご要望、使用後のフィードバック等は下記までご連絡をお願い致します。

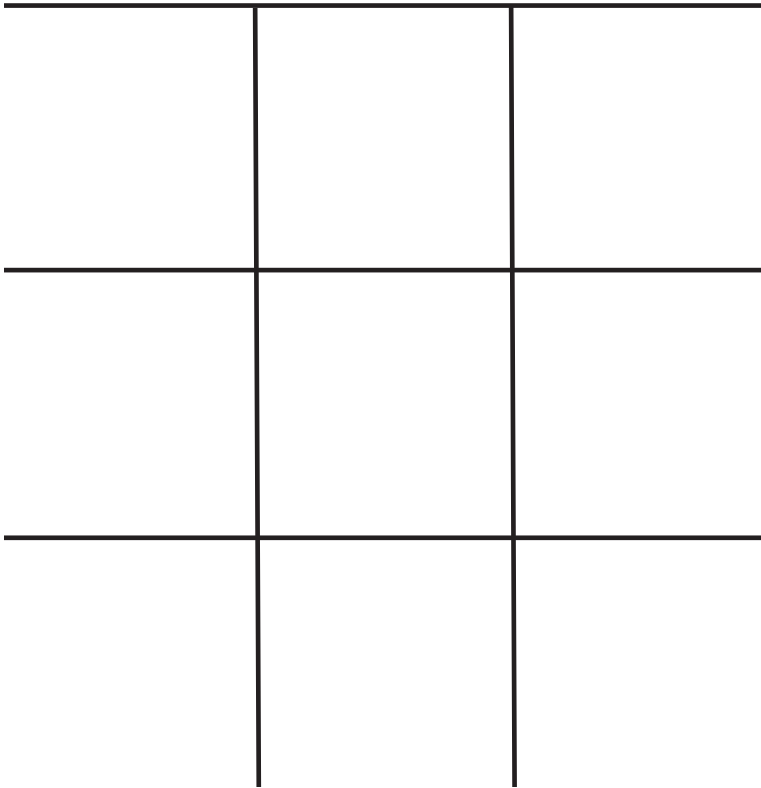
[大学教育開発・支援センター] e-mail: [cdshe@rikkyo.ac.jp](mailto:cdshe@rikkyo.ac.jp)

[マンダラート]

FD ワークショップ「授業デザインとアクティブラーニング」

立教大学大学教育開発・支援センターTL 部会

マンダラート



[大福帳サンプル]

FD ワークショップ「授業デザインとアクティブラーニング」



大福帳サンプル  
(出典:小澤康裕先生「立教ゼミナール」)



年度 ( 学期 ) 大 福 帳

担当 :	講義名 :	曜 時限	
学生番号 :		ふりがな 氏名 :	
月/日	感想, 言いたいこと, 聞きたいこと, あなたからの伝言	あなたへの伝言	
No. 1 /        			
No. 2 /        			
No. 3 /        			

※織田揮準、2006、「形成的評価法「大福帳」を用いた授業改善研究」  
皇学館大学文学部紀要 44、p.300の大福帳を小澤がアレンジしたもの。



## [大福帳サンプル]

FD ワークショップ「授業デザインとアクティブラーニング」

大福帳サンプル

(出典:小澤康裕先生「立教ゼミナール」)

No. 12 /	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	
No. 13 /	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	
No. 14 /	<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>	

<メモ>

--------------------------------------

## 【2部で使用した資料】

### 企業の入社式語録と大学の式辞

#### [立教大学]

(出典：http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/president/entrance2015/)

立教大学総長 吉岡 知哉 (2015年4月6日)

この春、立教大学は、学部生 4,511 名、大学院生 428 名、計 4,939 名を、大学の新しい構成員として迎え入れます。新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

立教大学は、今から 141 年前の 1874 年、明治 7 年に、アメリカ聖公会の宣教師で日本伝道主教の、チャニング・ムーア・ウィリアムズが、東京築地で始めた、聖書と英学を教える小さな私塾、「立教学校」を起源としています。

今年は、敗戦からちょうど 70 周年に当たりますから、立教大学は、敗戦の年を境に、前後 70 年の歴史を持っていることになります。立教大学の歴史の前半は、日本が近代国家として歩みを始めてから、戦争に突入り敗戦を迎えるまで。そして後半は、敗戦を機に、平和国家として再建を始めて現在に至るまでに重なっています。皆さんがこのような節目に、立教大学に入学したことを、どうぞ記憶しておいてください。

立教大学が創立された明治の初期、日本は「殖産興業」、「富国強兵」を旗印に、近代国家形成に全力を挙げていました。国家と産業を担う人材を育成するために、数々の大学が設立されたのも、この時期です。実利実益が重視され、「立身出世」が個人の目標とされる時代にあって、立教は、ヨーロッパの伝統である、リベラルアーツと国際性を教育の柱とし、真理の探求と、人間社会への貢献を使命として自覚する人間の育成を、目指したのです。

リベラルアーツは、11 世紀から 12 世紀にかけて、ヨーロッパで、大学が誕生した時期に体系化された、基礎的な科目群です。「自由 7 科」とも言われ、文法、修辞学、論理学からなる「言語系 3 科」、代数学、幾何学、天文学、音楽からなる「数学系 4 科」によって構成されていました。このうち、言語系 3 科は、書物を読み解き、真理の言葉を理解するための技能、そして、数学系 4 科は、自然を読み解き、神によって創られた被造物の秩序を理解するための技能であるということができます。天文

学と音楽とが、代数学、幾何学と並んでいるのは不思議に思われるかもしれませんが、天体の運動も音楽も、法的で調和ある世界の秩序を表現していると考えられていたのです。天体の運動が、妙なる音楽を奏でている、という説を知っている人もいることと思います。

リベラルアーツは、さまざまな専門領域の共通の基礎をなす知の技法の体系であると同時に、個々の専門知識が、人間の知識全体の中で、どのような場所に位置付けられており、他の専門知識といかなる関係を持っているのか、つまり、知識の意味を知るための、知識のための知識という性格を持っています。そして、世界の仕組みを知り、個々の知識の相互関係を把握することは、とりもなおさず、自分自身を振り返り、自分の知識の境界を意識すること、そしてさらに、世界全体の中における、自分の位置を知り、自らの存在意義と役割を自覚することでもあります。

近年、学問の高度化と細分化、そして、情報通信技術の進歩と連動したグローバル化の加速に伴って、リベラルアーツの重要性があらためて強調されるようになってきました。それは、リベラルアーツの持つ、いわば羅針盤としての働きが、現代社会において不可欠である、という認識が広がってきたからだだと思います。

“Liberal Arts”という英語は、日本語に訳すと、「自由の諸技芸」、やや意識すると、「自由人であるための諸技芸」という意味です。ここで言う自由は、古代ギリシャ・ローマにさかのぼる自由、すなわち、身分として奴隷や召使いでなく、自らが所属する政治社会の構成員、つまり自立した市民が有する、権利と義務、そしてそれを担う資格と能力を意味しています。同時に、この自由は、世俗の権威・権力からの自由でもあります。初期の大学は、ヨーロッパ中世の都市が自治権を獲得し、都市の自由を権利として確立していく歩みと併行して、発達してきたことを忘れることはできません。またこれが、『ヨハネによる福音書』第8章32節の、有名な言葉と響きあっていることを指摘することもできるでしょう。

これらのことから分かるように、リベラルアーツを学ぶことは、知的なスキルの修得にとどまるのではなく、自分とは異なる人々とともに人間社会を担う、意志と能力を養い、自立した市民となる、という実践的な意味をも有しているのです。

立教大学は、このようなリベラルアーツの思想を、教育・研究の基礎としてきました。現在、グローバル化が進展して行く中で、大学教育における国際性をいかに豊かなものにするかが課題とされていますが、立教大学では、国際化につ

いても、リベラルアーツの伝統を踏まえた「立教らしい」国際化を進めています。立教大学は、昨年、「Rikkyo Global 24」と題する国際化戦略を提示し、それと連動した構想が、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されました。「グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力 世界で際立つ大学への改革」という構想名称が、本学の国際化の特徴を表わしています。

これら国際化の取り組みは何よりも、一人一人の学生が、現状から一歩踏み出して、視野を広げ、今とは異なる視点を獲得する機会を、多様かつ重層的に作り上げていくことを目的としています。今後さらに、海外のさまざまな大学や研究機関との協定を増やし、留学や海外研修、そして他国の学生の受け入れを拡大していきます。また、外国語修得のためのカリキュラムの充実や、英語による履修コースの拡大も進めています。さらに、「グローバル・リベラルアーツプログラム (GLAP)」や、「グローバル教養副専攻」といった、新しいカリキュラムも開始されます。これらの仕組みを活用することによって、皆さんは、自分の持つ潜在的な可能性を見つけ出すことができるに違いありません。

先ほど述べたように、リベラルアーツ教育は、単なる知的な訓練ではなく、政治社会の構成員としての、自立した市民を育成する教育でもあります。グローバルイノベーションは、どこか外の世界で起こっている現象ではなく、私たちの存在基盤自体を根底から変えつつある変動です。私たちはどこにしようと、今や地球大に拡大した政治社会の構成員すなわち「世界市民」でもあるのです。リベラルアーツを基軸とする教育の国際化を通じて、皆さん一人一人が、人類社会の一員としての自覚を持ち、グローバルなシチズンシップを身につけてほしいと願っています。

これから、大学生、大学院生としての新しい生活が始まります。大学は、既存の知識を、言わばひとまとまりのパッケージのように、手に入れるところではありません。学ぶという営みは、自分の知らない事柄、自分とは異なるものを、自分ではない他者から受け取り、自分の中に受け入れることによって、自分を変えていく過程なのです。そのような自分の変化を、積極的に肯定する柔軟な能力が、「知性」と呼ばれるものに他なりません。

「自由の学府」立教大学には、このような知性を鍛えるための機会が、至る所に開かれています。このぜいたくな時間と空間をぜひ、最大限に活用してください。

入学おめでとうございます。

## [15 入社式 TOP 語録]

15 入社式 TOP 語録／日本郵船・内藤忠顕社長ほか  
(出典：2015 年 04 月 06 日 日刊工業新聞)

### 【日本郵船・内藤忠顕社長／好奇心を大切に】

海運業界は世界の政治や社会情勢がダイナミックに反映される。これから出会うことに「好奇心」を持ち続け、世間の常識やインターネットの情報をうのみにせず、自分自身で調べ、物事の本質はどこにあるかを自分の頭で考えて欲しい。

### 【商船三井・武藤光一社長／自律自責型で】

世界を相手に、どんな難題に直面しても、常に当事者意識を持ち、解決策を見だし、関係者と協調しつつ、自らその解決策を実践し、新しい価値を生み出していく自律自責型の人材を目指してほしい。

### 【竹中工務店・宮下正裕社長／創造的な人に】

社は「正道を履み、信義を重んじ堅実なるべし」と当社の伝統的精神を心に刻み込んでいただきたい。新しいものに積極的にチャレンジし、多様な価値観を持った個性豊かで創造的な社会人に育ってほしい。

### 【戸田建設・今井雅則社長／組織引っ張れ】

2050 年の日本の人口予測は 9000 万人台。社会構造が激しく変化している。その時、皆さんは当社を支え組織を引っ張って活躍しているだろう。“喜び”に満ちあふれた企業グループになっていると確信する。

### 【コスモ石油・森川桂造社長／全力でぶつかって】

与えられた仕事に誠実に、忍耐強く、情熱を持って取り組んでもらいたい。小さな事に忠実でなければ大きな事に忠実になれない。周囲のアドバイスにしっかり耳を傾け、全力で仕事にぶつかって行ってほしい。

### 【豊田通商・加留部淳社長／自己研さんを】

当社にはいろいろな働く場所やチャンスがあり、多種多様な人材を求めている。自分の持っている才能や会社がどういう人材を求めているのかを良く見極め、足りない部分があれば勉強し自己研さんに励んでほしい。

### 【TOTO・喜多村円社長／30 年後も誇りに】

2017 年に創立 100 周年を迎えるが、取り巻く環境が飛躍的な速度で変化する

中で皆にも変化をお願いしたい。変えてはいけないものなど何もない。20年後、30年後も誇りに思えるTOTOグループを目指そう。

**【ヤマハ・中田卓也社長／型にはまらず】**

「誠実」な姿勢で「志」に向け「自発的」に行動、「挑戦」して「執着」する。この五つを心に刻んでほしい。会社のルールは守る必要があるが、仕事は型にはまらなくていい。溢（あふ）れる情熱と柔軟性を発揮してほしい。

**【西武ホールディングス・後藤高志社長／安住せずに】**

私たちは変化の激しい時代に生きており、このようなときに一つのところに安住することは、衰退を意味する。スピード感をもってイノベーションに挑戦していくことが我々に課された使命だ。

**【住友大阪セメント・関根福一社長／日々まい進】**

当社はセメントの供給が安心・安全で豊かな社会の実現に寄与することを信じ、日々まい進している。皆さんが高い志と誇りを持ち、何事もあきらめず、明るく元気にまい進することを期待している。

**【森ビル・辻慎吾社長／共に未来築く】**

私たちは都市づくりという仕事を通じて「東京を世界一の都市にしたい」と本気で考えている。その原動力は都市に対する情熱や責任感だ。皆さんも覚悟してほしい。共に挑戦し、共に成長し、共に未来を築いていこう。

**【ミズノ・水野明人社長／リミッター外して】**

「できない」と諦めたらそれで終わりだ。人間は自分の身を守るために、運動や出力を制限するリミッター機能を持っている。このリミッターを外してほしい。「できるまでやりぬく」エネルギーをいかに長く持ち続けられるかが重要だ。

**【Jパワー・北村雅良社長／技と心一つに】**

電気をつくり続け、送り続ける仕事は1人ではできない。一人ひとりが知恵を振り絞り、チームとして技と心の一つにした時に初めていい仕事ができる。同志として世のため人のため、いい仕事をしよう。

**【日本たばこ産業・小泉光臣社長／社畜になるな】**

JTグループ丸という船で港にたどり着いた時、皆さんに初めて「おめでとう」

---

の言葉をかける。今日がそのスタートラインだ。責任を自らではなく組織に転嫁する社畜に成り下がるなと申したい。

**【クラシエホールディングス・石橋康哉社長／縁が幸運呼ぶ】**

皆さんが必死に頑張る姿は、当社の成長を牽引する力になる。社会人の第一歩を当社で踏み出すことになった縁、仲間や先輩、取引先との縁を大切にすれば、必ずその縁が幸運を引き寄せてくれる。

**【日本ハム・末澤壽一社長／根幹は企業理念】**

グループ経営の根幹は企業理念にある。企業理念を始め事業内容をしっかり勉強してほしい。失敗を恐れず積極的に挑戦することが大切だ。一人ひとりがグループブランドを背負うことを自覚し業務に励んでほしい。

**[東京大学]**

(出典： [http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/b\\_message27\\_01\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen01/b_message27_01_j.html))

平成 27 年度東京大学学部入学式 総長式辞

本日ここに東京大学に入学された新入生の皆さんに、東京大学の教職員を代表して、心からお祝いと歓迎の意を表します。皆さんを新たな仲間として東京大学にお迎えすることは、私たち教職員にとっても大変喜ばしいことです。

目標としてきた東大入試を突破し、念願が叶ったという喜びと、大学での新しい生活への期待に胸を膨らませていることと思います。東京大学の恵まれた教育環境を思う存分に活用して、大きく成長してください。

ご列席のご家族の方々にも、心からお喜び申し上げます。皆さんが大切に育てられたお子さんが、東京大学でその能力をさらに大きく伸ばすことができるよう、私たち教職員も全力を尽くしたいと思います。

本日入学された皆様は 3,144 名です。うち、女子学生は 580 名、外国人留学生は 38 名です。あとで詳しくお話しするように、東京大学は、多様性を大切にしたいと考えています。それは、優れた人材が育つためには、多様な人材が集まって切磋琢磨する環境が不可欠だからです。東京大学には、全ての都道府県の出身者が在籍しています。その点では多様性に富む大学と言えます。しかし、女子学生と外国人留学生の比率については、残念ながら私たちの期待する水準には至っていません。私は、東京大学の学生の多様性をさらに豊かなものにしていかねばならないと考えています。

新入生の中には、東日本大震災で大きな被害を受けた地域から進学された方々も含まれています。中学生のときに大震災に遭い、復旧復興が進む中で高校時代を過ごし、困難な環境の中で勉学に励まれ、そして今日この日を迎えられるました。ハンディキャップを乗り越えたご努力に、心より敬意を表します。大震災発生から 4 年の歳月が流れました。しかし、復興はいまだ道半ばです。東京大学はこの間、濱田前総長の下で、多くの教職員や学生が様々な復興支援の活動を行ってまいりました。これからも、復興にむけた貢献を続けていく決意であります。新入生の皆さんも、復興支援のボランティアの輪にぜひ積極的に加わってください。

さて、東京大学は 1877 年（明治 10 年）4 月 12 日に創立されました。昨日が東京大学の 138 回目の誕生日です。皆さんが 3 年生に進学するときに、東京大学は創立 140 周年を迎えることになります。

東京大学の前身である蕃書調所は 1857 年、種痘所は 1858 年の幕末期に設立



されました。明治期に入り、文明開化の時代になると、西洋諸国の近代化の成果を一気に導入することが必要になりました。その中枢的役割を担うために東京大学が設立されました。そこで教育の中心的役割を担ったのは、西洋諸国から招聘した外国人教師、いわゆるお雇い外国人で、講義はほとんど外国語で行われていました。設立当初の東京大学は、今よりもはるかに国際化していたのです。

東京大学は、1886年（明治19年）に公布された帝国大学令によって帝国大学に改組され、総合大学としての原型が整いました。その際に、工部省が所管していた工部大学校が帝国大学に統合されました。これは実は、世界的に見て画期的な試みだったのです。中世ヨーロッパに起源を持つ西洋諸国では、大学は、医学、理学、法学、文学などの古典的な学問を教育研究する組織であり、工学のような実用技術は大学では取り扱わないとする考えが支配的だったのです。東京大学は、工学を学問として、他の古典的な学問と同格で総合大学の構成要素と位置付けたわけです。これは世界で初めてだったのです。現在では、欧米の大学に工学部が設置されているのは普通のことになりましたが、東京大学のこの試みは、先駆的なアイデアだったのです。

この頃既に、東京大学から優れた人材が育ちはじめていました。アドレナリンの結晶抽出に成功した高峰譲吉、緯度変化のZ項を発見した木村栄、土星型原子模型を提唱した長岡半太郎など、教科書に紹介されているような著名な研究者は、いずれも東京大学の創設期の卒業生です。彼らは、単に西洋の先進的な学術を学んだだけでなく、それぞれの領域で従来の学問の常識を超える、世界最先端の学術成果をあげた人物たちです。

高峰たちのように、知識を武器として活動し、既存の常識を超える新たな発明や発見をし、そのことを通じて世界を舞台に、人類社会に貢献するような人物を、私は「知のプロフェッショナル」と呼びたいと思います。高峰たちは傑出した「知のプロフェッショナル」ではありますが、彼らは決して例外ではありません。私は、東京大学総長として、東京大学で学ぶ全ての学生諸君が「知のプロフェッショナル」になって欲しいと願っています。またそれは可能なことであると確信しています。

それでは、どうしたら皆さんは「知のプロフェッショナル」になることができるのでしょうか。

「知のプロフェッショナル」になるためには、当然のことながら、それぞれの専門領域で最先端の知識を身に付けなくてはなりません。皆さんがこれから身に付けなければならない専門知識はきわめて高度なものですが、東大入試に合格した皆さんなら、よほど怠けない限り、十分に咀嚼可能でしょう。しかし、いかに高度であっても、単に既存の知識を吸収するだけでは、不十分なのです。皆さんが、既存の知

識の限界を突破する「知のプロフェッショナル」になるためには、最先端の知識を身に付けることに加えて、3つの基礎力を身に付けることが不可欠だと私は考えています。

第1の基礎力、それは、「自ら新しいアイデアや発想を生み出す力」です。

高等学校では、身につけるべき知識はあらかじめ定められていました。その知識を学び取ることが即ち学習でした。東京大学の入学試験においても、高等学校の学習指導要領の範囲を超えた問題を出題しないことを原則にしています。ですから、皆さんがこれまで励んでこられた受験勉強は、いわば有限の枠内における勉強だったのです。それに対して、東京大学におけるこれからの学びは、自由であり、かつ無限です。そもそも大学には指導要領など存在しません。東京大学では世界最先端の知の探求を目指し、日々研究がすすめられています。大学教育はその最先端の知の担い手を育成することを目指しています。世界の最先端には、先人によるお手本はありません。これまでのように先生が授業で教えてくれたことに満足するだけでは、既存の知の限界を突破することは永遠にできません。そこで求められるのは、「自ら新しいアイデアや発想を生み出す力」なのです。

第2の基礎力は、「考え続ける忍耐力」です。

東京大学の入学試験では、受験生が持っている知識の多さよりも、持っている知識を組み合わせる解を導く力、すなわち「考える力」を重視しています。ですから、東京大学の入学試験に合格した皆さんは、優れた「考える力」を持っていると言えます。しかし、東京大学の学びで求められる「考える力」は、それよりもはるかに高い水準のものなのです。というのも、入学試験では解答時間が決まっています。問題を解くために考える時間は、せいぜい2時間か3時間です。そして、試験問題には基本的に正解が存在します。それに対して、最先端の知を追求する大学の学びでは、どうすれば正解に辿り着けるのか誰にも分かりません。そもそも正解があるのかも分からないのです。そこで求められるのは、単なる「考える力」ではなく、「考え続ける力」なのです。考え続ける期間は、何日も、何週間も、時には何ヶ月にも及ぶかもしれません。ですから、それは「考え続ける忍耐力」と呼ぶべき力なのです。天才の一瞬の閃きによって生み出されたとされる歴史的な発見であっても、実は、殆どの場合、「考え続ける忍耐力」の産物なのです。

第3の基礎力は、「自ら原理に立ち戻って考える力」です。

大学での学びを通じて、皆さんはそれぞれの専攻する専門分野を選び、やがてそれぞれの専門分野におけるエキスパートとして活躍することになるでしょう。学問

は、高度化すればするほど専門化し、細分化される傾向があります。細分化が進む中で、袋小路に迷い込んだ経験を持たない幸運な研究者は、むしろ稀です。袋小路に迷い込んだ時、研究者を救うのは、「自ら原理に立ち戻って考える力」なのです。原理に立ち戻ること、自分が今どこに立っているのかを確認し、進むべき方向を見いだすのです。

これまでお話ししたこと、東京大学における学びが、高校時代の学習や受験勉強とは質的に大きく異なるものであることはご理解頂けたと思います。皆さんは、東京大学に合格して、受験勉強から解放されました。そしてそれは、「自ら新しいアイデアや発想を出す力」、「考え続ける忍耐力」、「自ら原理に立ち戻って考える力」という3つの基礎力を身につけるための、新たな学びへのスタートに他ならないのです。

受験勉強からこの新たな学びへの転換には、ギアチェンジが必要になります。東京大学は、濱田前総長のもとで「学部教育の総合的改革」と呼ばれる大規模な教育改革に取り組んできました。それは、みなさんがこのギアチェンジをスムーズに行えるようにするためのものです。新入生が最初の1年間、大学を休学し、自ら作った計画に基づいて様々な体験活動に取り組む初年次長期自主活動プログラム（FLYプログラム）、自らが選択して多様な活動を経験する体験活動プログラムなどがあります。また、皆さんの学年から始まる、初年次ゼミナールでは、様々な分野の第一線で活躍する教員が、少人数のクラスで、自らの研究体験を踏まえながら、大学での学びについて語り、皆さんの知的好奇心に火を付けたいと思っています。ここではこれらのプログラムの詳細な説明は省きますが、皆さんの新たな学びへの挑戦を応援しています。どうか存分に活用してください。

さて、大学の学びの中で3つの基礎力を身に付けた皆さんは、「知のプロフェッショナル」に向けて次第に歩いていくことになります。そこで、皆さんがこれから「知のプロフェッショナル」になる上で欠かせないのが、「何のために」という問いに答えることなのです。

この問いに対する答えを見つけるのは皆さん自身です。私たち教員は答えを教えることはできません。しかし、皆さんに対して、それぞれの専門を生かして、人類の抱える諸問題を解決することに貢献していただきたいと願うことは、許されると思います。

20世紀は「科学技術の世紀」と呼ばれ、科学技術の多くの分野で目覚ましい革新が生み出されました。21世紀に入って、変革の速度はますます増えています。科学技術の発展は、かつて人類が抱えていた多くの問題を解決しましたが、同時に

新たな問題を発生させました。例えば資源の枯渇、環境破壊、世界金融不安、地域間の格差拡大等です。これらは地球規模の深刻な問題であり、人類の存続を脅かしています。私たちは、人類の未来のために、学問の力を通じてこれらの諸問題の解決に貢献する責任があります。皆さんは是非、それぞれの専門を生かして、これらの諸問題を解決することに挑戦し、貢献してください。

これらの課題は、いずれも難問です。こうした難問を解決するのに必要なものは何か。私は、「多様性すなわちダイバーシティー (diversity) の尊重」そして「自己を相対化する視野」の二つが絶対に必要であると考えています。

「多様性の尊重」が必要なのは、これらの正解の分からない難問を解くためには、多様な観点から様々な知恵を出し合うことが不可欠だからです。その前提として、多様性が尊重されなくてはなりません。多様性の尊重とは、人々の国籍、性別、年齢、言語、文化、宗教などの違いを大切にし、互いの個性を尊重することです。現在急速に進行しつつあるグローバル化は、人々の生活をフラット化する、すなわち画一化する方向に導く傾向があります。しかし、個性を塗りつぶして、皆が同じような生活をする社会は人類の進むべき方向ではないはずです。

私は、グローバル化の中で顕在化してきている問題を解決するためには、むしろ画一化の対極にある多様性の尊重が不可欠だと考えています。多様性が尊重される社会において、人々が異なる視座からの知恵を出しあい、地域や国境を越えて共に行動し、協力して社会をよりよい状態に導くのです。すなわち「多様性を活力とする協働」が地球規模で行われることこそ、真のグローバル化の姿でなくてはなりません。

「多様性を活力とする協働」とは、自らと異なるものを理解し、互いの違いを尊重しあいながら協力することです。そのために求められるのが、私のいう「自己を相対化する視野」なのです。皆さんがこれから学ぶ駒場の教養学部は、「自己を相対化する視野」を獲得するための絶好の条件が整っています。東京大学に入学した全ての新生が学ぶ教養学部には、全国、そして海外から多様な学生が集まっています。皆さんは、クラスだけではなく、課外活動や学生寮での生活などを通して、自分とは異なるバックグラウンドを持つ友人を見つけ、意識して交流してください。私自身も、教養学部時代のサークル活動で培った、文系理系を越えた交流は、生涯の貴重な財産になっています。

皆さんは、これから教養学部で学ぶ中で、自ら進むべき専門分野を見極め、選ぶこととなります。しかし、私は皆さんに対して、あえて、自らの選ぶ専門分野の対極にあるような学問に触れ、自らの専門についてもそれを相対化する視野を教養学

部時代に身に付けることを、強く勧めたいのです。文系の皆さんは、自然科学の最先端の学問に是非触れてみてください。理系の皆さんは、文化や社会の在り方に関する人類の叡智に是非触れてみてください。せっかくの機会を素通りして卒業してしまってはもったいないのです。

このように自らと異なるものとの交流を体験することを通じて、皆さんは「自己を相対化する視野」を獲得することができますでしょう。そしてそれは、「知のプロフェッショナル」として活動するはずの皆さんの可能性を大きく広げるはずです。

私は、この4月1日に東京大学総長に就任したばかりです。皆さんと同じ1年生です。東京大学の教育研究の水準をさらに高度なものとするに努め、皆さんが東京大学を卒業するとき、「東京大学で学んでよかった」と心から思えるような大学にしたいと考えています。伝統は守るだけのものではなく、創り出すものです。皆さん、是非一緒に東京大学の新しい伝統を創っていきましょう。

最後になりますが、何事を成し遂げるにも健康が第一です。その為には規則正しい生活をするのがなによりです。規則正しい生活をする秘訣をお教えしましょう。まず、朝、きちんと起きて朝食をしっかり食べること、そして授業に出席することです。

「知のプロフェッショナル」を目指して大きく成長してください。皆さんのご健闘を祈ります。

平成27年(2015年)4月13日

東京大学総長 五神 真

## [国際教養大学]

(出典：http://web.aiu.ac.jp/news/2015/04/08\_14393.html)

学長式辞

学長 鈴木 典比古

新入生の皆さん、国際教養大学に御入学おめでとうございます。また、保護者や関係者の皆さん、お子様方が晴れて本学に入学なさった事に対しまして心からお祝いを申し上げます。

今年は、178名の学部生、93名の海外からの留学生、そして8名の大学院生、合計279名の新入生を迎えております。本学は2004年に創設されましたが、その建学の理念は「国際教養大学は「国際教養 (International Liberal Arts)」という新しい教学理念を掲げ、英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力と豊かな教養、グローバルな視野に伴った専門知識を身に付けた実践力のある人材を養成し、国際社会と地域社会に貢献することを使命とする」ことにあります。そしてその理念に共感する次のような学生を求めています。

学習意欲が強く、鋭い問題意識をもつ学生

国際社会を舞台に活躍できるような実践的な外国語運用能力（特に英語）と、幅広い教養の修得を志す学生

世界の多様な文化、言語、歴史、社会、そして経済や環境などの国際関係について、強い関心と探究心をもつ学生

さて皆さん、皆さんが本学を目指した動機や目的は何であつたでしょうか。本日、この入学式に列して、心中に去来するものは何でありましょうか。本学の高い評価にあこがれて入学したのでありますか。本学ならば何か良いものを与えてくれるであろうという期待感がありますか。それらのものは、おそらくこれから始まる4年間の厳しい勉学を通して懸命に努力した結果入手できるでありましょう。しかしながら、今から保証されているものではありません。それは全て皆さん次第です。皆さんが自らの手でこの目的を達成しなければなりません。本学も、この皆さんの自助努力に呼応して、皆さんに十分な勉学と研究の機会を与えるべく体制を整えております。

本学は昨年9月に文部科学省が公募した「スーパーグローバル大学創成支援事業」に応募し、申請したプロジェクトが採択になりました。これに応募したのは109

大学でありましたが、採択されたのは 37 大学でありました。日本には 870 余の大学があることを考えれば、本学の採択は厳しい競争をくりぬけてのものであったことがお分かりと思います。今後 10 年間に掛けてこのプロジェクトを遂行してまいります。本学がこの申請プロジェクトにおいて 10 年間の目標とすると宣言したのは「日本発ワールドクラスリベラルアーツ大学構想」というものであります。本学は 2004 年に開学した当初から、全ての授業を英語で開講すること、全ての学生が 1 年間海外に留学し、海外の大学で取得した単位をもちかえってくること、1 年生は全て寮生活を送り、留学生達との共同生活を体験すること、などのユニークな教育を行って来ました。これらのユニークな教育は今や日本の他の大学のモデルとなっており、この度の「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択になった他の多くの大学が、本学がこれまで行ってきたこのような教育をこれから始めようとしているところです。本学のこれまでのユニークな教育に賛同する大学が出てきたことは歓迎すべきことであります。しかし、このことは同時に本学の教育が相対化され、先進的特徴を失う事を意味しております。

かくして本学は「日本発ワールドクラスリベラルアーツ教育構想」において、これから 10 年間に掛けて自らを更に高いレベルに飛び立たせてゆく決意をいたしました。この構想は 4 つのプロジェクトから成っております。第 1 のプロジェクトは「24 時間リベラルアーツ教育の推進」であります。本学の学生のうち 90 パーセントがキャンパスに居住しています。学生諸君は勉学において様々な分野に関心を持ち、将来のキャリアにおいても多様な職業に関心を持っています。それらの諸君が 24 時間の大半を過ごす学生寮において同じテーマに関心を持つ者同士が、切磋琢磨してゆく共同生活の場を作ることです。既に学生諸君から様々なテーマの共同生活の場を作ってほしいとの要望が出されております。第 2 のプロジェクトは「世界標準のカリキュラム」の提供であります。本学の 3 年生は全て海外の提携校に 1 年間留学しますが、この 3 年生の居るべき位置に、ほぼ同数の海外からの留学生が入ってきます。したがって、本学の学生の構成は 1、2、4 年生が本学の学生で、3 年生が海外からの留学生、というサンドイッチ構造になっています。このような構造の学生諸君に対して、体系的でシームレスなカリキュラムを提供しなければなりません。そのようなカリキュラムとは世界に通用する世界標準のものでなければならぬわけです。第 3 のプロジェクトは「日本の英語教育を改革するモデルを提示する」ことであります。本学の学生諸君は英語での授業を受講することに慣れております。このような諸君が日本の小中高校の生徒たちに英語で英語を教えるイングリッシュ・ビレッジを開設します。それと同時に、本学の教員は常に英語で授業を行っていますので、本学の教員達が小中高校の英語の先生たちに

英語で英語の授業を行うことを指導するプログラムを始めます。第4のプロジェクトは「国際ベンチマーキング」であります。これは本学のカリキュラムを米国のリベラルアーツ大学のカリキュラムと比較して、内容やレベルにおいて同水準のものに向上させていくプロジェクトであります。このような本学の「日本発ワールドクラスリベラルアーツ構想」は、比喩的に表現しますと、4つのブースター補助エンジンを備えて空高く飛び立つロケットのように表わされるものであります。この4月からブースター補助エンジンが次々に点火し、国際教養大学のロケット本体が静かに空に舞い上がり始めます。このロケットに乗って空高く舞い上がって行くのは誰でありましょうか。それは諸君であります。誠に諸君は本学がこれから10年間飛行を続けるロケット本体の乗組員として入学してきたのであります。諸君が4年間の飛行を続けて学業を全うした暁にロケットの窓から見える下界の景色は一変していることでありましょう。勿論、我々教職員もこのロケットの同乗者になりません。

皆さんはこれらの訓練や体験を経て、必ず脱皮して行きます。繰り返しになりますが、それも皆さん次第なのです。しかしながら、そう言ったからといって、我々教職員が皆さんの努力や苦闘を手をこまねいて傍観していることは決していたしません。それどころか、我々も共に身を投じてロケットに乗船し、皆さんの脱皮を手助けします。このことはどうか信頼してください。さあ、それでは皆さん、これからの4年間で必ず大きな脱皮をして成長すると我々の前で自らに誓ってください。

それでは今から、その第一歩を歩み出しましょう。



## [早稲田大学]

(出典： <https://www.waseda.jp/top/news/25597>)

15年度 学部入学式 総長式辞

皆さん、ご入学おめでとうございます。

2015年度4月学部入学式にあたり、早稲田大学を代表して、新入生の皆様ならびにご列席のご家族・ご関係者の皆様に対し、心よりのお祝いと歓迎のご挨拶を申し上げます。

本日、めでたく早稲田大学に入学された学部生は、政治経済学部 892名、法学部 834名、文学部 724名、教育学部 983名、人間科学部 679名、国際教養学部 467名、文化構想学部 945名、商学部 1,011名、社会科学部 698名、基幹理工学部 643名、創造理工学部 628名、先進理工学部 588名、スポーツ科学部 437名、13学部合わせて総計 9,529名に上ります。

なお、本学では、毎年4月と9月に入学式を行っており、昨年9月には349名の学部生が入学していますので、本日現在の学部1年生の総数は9,878名になります。このうち、海外からの留学生は486名で、数多くの優れた若者が、世界各地から早稲田の森に集ってくださったことを、たいへん嬉しく思います。

新入生の皆さんの中には、希望通りの学部・学科に入学した達成感に浸っている人もいれば、必ずしも希望が叶わず悔しい思いをしている人もいると思いますが、今日を境に、それらの思いに区切りをつけて、新しい目標と新たな学習意欲をもって自己研鑽に努めるようにしてください。

新入生の皆さんも、2013年10月の教育再生実行会議第4次提言や2014年12月の中央教育審議会答申などを契機として、大学入試改革をめぐる議論が盛んになっていることをご存じのことと思います。

入学試験はもう終わったので自分には関係ないと思われるかもしれませんが、実は皆さんとも無関係ではありません。

具体的な入学者選抜制度としてどのような方式を採用することが望ましいかについては意見の分かれるところですが、中教審答申の指摘する次のような現状認識

については、かなり幅広く共有されているように思われます。すなわち、現在の高等学校教育でもっぱら難関大学の入学試験に合格することが自己目的化されており、大学入試に必要な知識・技能やそれらを与えられた課題に当てはめて活用する力は向上させられたとしても、自ら課題を発見し解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力や、主体性を持って他者を説得し、多様な人々と協働して新しいことをゼロから立ち上げることのできるイノベーションの力を身につけることはできていないので、高等学校教育・大学入学者選抜・大学教育を一体として改革する必要があるというのです。

新入生の皆さんは、これまでは、すべての問題に唯一無二の正解があるという前提で勉強してきたかもしれませんが、皆さんが大学を卒業した後に生きていく時代について、ニューヨーク市立大学のキャシー・デビッドソンは、「2011年にアメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就く」と予測していますし、ケンブリッジ大学のフレイとオズボーンは、「今後10～20年程度で、米国の47%の仕事が自動化される可能性が高い」としています。

この予測が当たるかどうか定かではありませんが、現在とは全く様相を異にするであろう未来社会を支えていくこととなる新入生の皆さまには、事前に模範解答の用意されていない諸問題に果敢に取り組み、新たな世界を切り拓いていく力を身につけることが求められているのは間違いないでしょう。

本学は、中教審答申などに先立つ2012年11月に策定した新たな将来計画”Waseda Vision 150”において、教育面では、「洞察力・人間力を備えたグローバルリーダーの育成」を目指すことを宣言し、これに基づいて、学生が、問題の本質を見抜き、自ら必要な調査・分析を尽くして、あるべき解決策を構想し、議論や実験による検証を経て、成案を得た上で、それを実行していく力を涵養するための教育体制の整備を進めています。

たとえば、グローバル・エデュケーション・センターを設置して、すべての学生が、学部の壁を越えて、実践的外国語能力・学術的文章作成力・数学的論理的思考力などの基本的スキルと、幅広い教養を身につけることができるようにしています。また、各学部の授業においても、大教室での講義中心から少人数での対話型・問題解決型授業への転換を加速させ、インターンシップやボランティアなどの体験型授業の拡大などに努めています。

さらに、早稲田大学は、サークル活動その他の学生の自主的活動を通じて多様な才能を開花させるとともに、個性豊かな学生相互の切磋琢磨によって人間力を涵養してきたという良き伝統があり、大学での専攻とは全く異なる分野で大成した校友が多数存在していることは皆さまもよくご存じのことともいます。

また、グローバル化対応については、本学は名実ともに日本で最も進んだ大学となっています。

世界の主要9都市の海外拠点、700を超える海外の有力な大学・研究機関との交流協定やダブルディグリープログラム、セメスター（半期）制の完全実施とクォーター（4学期）制の部分的導入を基礎として、6学部11研究科で英語の授業のみによって学位を取得できる体制を整備していることなどを通じて、約5,000名の外国人学生を受け入れ、日々の授業やサークル活動で、さらには国際学生寮での共同生活等を通じて、文化的背景や価値観の異なる学生たちと外国語で議論をし、相互理解を深めることができるようになっていきますし、学生のさまざまなニーズに応じた多彩な留学プログラムの提供、外国大学で取得した単位の本学の要卒単位への算入等により、毎年3,000名を超える本学在学生在を海外に送り出しています。

新入生の皆さまにおかれましては、是非とも、本学の優れた環境を活用して、大学入試のために蓄積した豊富な知識を知恵に転換させ、異文化対応能力を向上させるよう努めてください。

もっとも、これらを十分に活用するか否かは、基本的に学生の自主的な選択に任されています。自分から積極的に探してみれば、早稲田大学には、長い伝統の中で形成されてきた学問的・文化的な資産が驚くほど大量に蓄積されていますし、主体的・能動的な学びの意欲に十分に応えることのできる環境が整っています。他方で、漫然と大学が手をさしのべるのを待っているだけですと、4年後には大学は何もしてくれなかったという不満をもって大学を卒業していくことになりかねません。

ところで、早稲田大学は、私立大学であります。私立大学は、それぞれ建学の精神に従った独自性のある教育・研究を行っているところに特色を有しています。

早稲田大学の建学の精神を謳った「早稲田大学教旨」は、「学問の独立」（自由で独創的な研究を通じて世界の学問に裨益すること）、「学問の活用」（学理を学理として究めつつ、その応用の道を講ずることによって社会の発展に寄与すること）、

「模範国民の造就」（個性を尊重し、心身を発達せしめて、学問の成果を私利私欲ではなく社会全体の利益のために用い、広く世界で活動する人格を養成すべきこと）を説いており、大隈重信は、この利他的な人格の涵養こそが本学の教育の根本をなすべきであると強調しています。

この利他的な人格の理念を体現した早稲田人の一人に、第二次世界大戦中に、本国からの命令に背いて、「命のビザ」を発給し続け、ナチス・ドイツの迫害から逃れてきたユダヤ人難民 6 千名以上の命を救った杉原千畝さんがいます。本学では、杉原さんの没後 25 年にあたる 2011 年に、杉原さんが学んだ教育学部が使用している 14 号館の前に顕彰碑を設置しました。そこには「外交官としてではなく人間として当然の正しい決断をした」という杉原さんの言葉が刻まれています。

本日は、第 2 回入学式において、この「命のビザ」で日本に渡り、後に米国で金融先物商品や電子取引システムの世界を創設し、「金融先物市場の父」と称されるに至ったレオ・メラメド シカゴ・マーカンタイル取引所グループ名誉会長に名誉博士学位を贈呈し、ご自身の体験を踏まえた感動的なお話をしていただきました。戦後 70 年にあたる本年にこのような貴重な機会を持てたことは、極めて有意義であったと思います。

新しい時代を作り上げていくという崇高な使命を担う新入生の皆さまには、この建学の理念をかみしめて、是非とも真摯に学問に取り組み、学問の成果を人類の幸福のために活かしていただくことを、切に期待しています。

多くの新入生の皆さまにとっては、これから始まる学部生としての 4 年間は、人生において、最も自由に学問や芸術・スポーツなどに取り組み、一生の宝となる貴重な人間関係を構築することのできる最後の機会となります。

この貴重な 4 年間で皆さんにとって実り多いものとなることを祈念して、私からのお祝いと歓迎の挨拶とさせていただきます。

皆さん、ご入学、おめでとうございます。

早稲田大学 総長 鎌田 薫

## ◆参加者アンケート集計結果とそれに対する今後のアクション

### ◆アンケート集計結果 (回答数 22/32 名、回収率 68.75%)

#### Q1. ご所属・職種

	%	(人)
1 本学専任教員：助教	36.36	8
1 兼任講師	36.36	8
2 本学専任教員：准教授・教授	13.64	3
2 その他	13.64	3
	100.00	22

#### Q2. 授業経験年数 (他大学での授業経験含む) 平均 6 年 (SD 6.77)

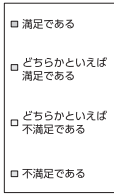
#### Q3. 本ワークショップを知った手段

	%	(人)
1 SPIRIT Gmail でのお知らせ	42.86	9
2 兼任講師控室掲示ポスタ	19.05	4
2 他教員から紹介	19.05	4
3 学内便配布チラシ	14.29	3
4 その他 (→職場からの紹介)	4.76	1
	100.00	21

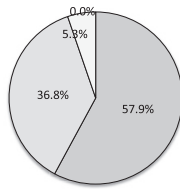
#### Q4. ワークショップの感想 (満足度)

##### ワークショップの感想 (%)

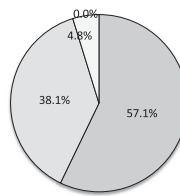
	満足である	どちらかといえば 満足である	どちらかといえば 不満である	不満である	計	(人)
(1) 1 部講義	57.9	36.8	5.3	0.0	100.0	19
(2) 1 部のグループワーク	57.1	38.1	4.8	0.0	100.0	21
(3) 2 部のグループワーク	50.0	45.0	5.0	0.0	100.0	20
(4) 配布資料	60.9	34.8	4.3	0.0	100.0	23
(5) センター関係者による運営	72.7	22.7	4.5	0.0	100.0	22
(6) 開催時間	36.4	50.0	4.5	9.1	100.0	22
(7) 食事をしながらという形式	61.9	33.3	4.8	0.0	100.0	21
	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	計	人
(8) 自分の授業を見直す際の ヒントが得られた	60.9	34.8	4.3	0.0	100.0	23
(9) 自分の授業で使える具 体的な知識・学法を学べた	61.9	33.3	4.8	0.0	100.0	21



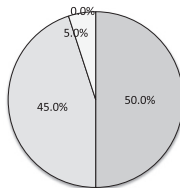
(1) 1部の講義



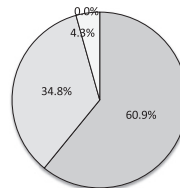
(2) 1部のグループワーク



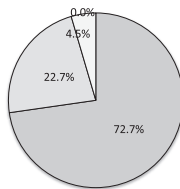
(3) 2部のグループワーク



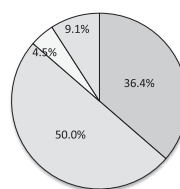
(4) 配布資料



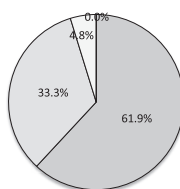
(5) センター関係者による運営



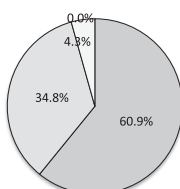
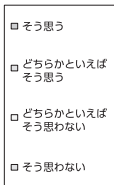
(6) 開催時間



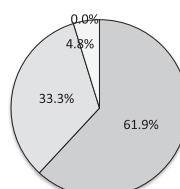
(7) 食事をしながらという形式



(8) 自分の授業を見直す際のヒントが得られた



(9) 自分の授業で使える具体的な知識・学法を学べた



Q5. 改善点・気づいた点、Q6 次回以降への要望、授業での悩みや課題の自由記述  
 カテゴリ分析した結果、①時間に関する改善点と要望(17)、②時間以外の改善(4)、③次回WSへの要望(17)、④お礼・感想等(13)の4つのカテゴリに分類された(カッコ内数字は度数)。

カテゴリ①は〈時間が足りない(9)〉が最も多く、質疑応答やディスカッションの時間をさらに増やして欲しいという要望が挙げられた。〈時間の改善(5)〉はより長い時間での開催や、連続講座での開催を望むもので、これはカテゴリ③の「全学でより広い対象で実施」して欲しい(4)と合わせるとカード数は(9)となった(図1)。

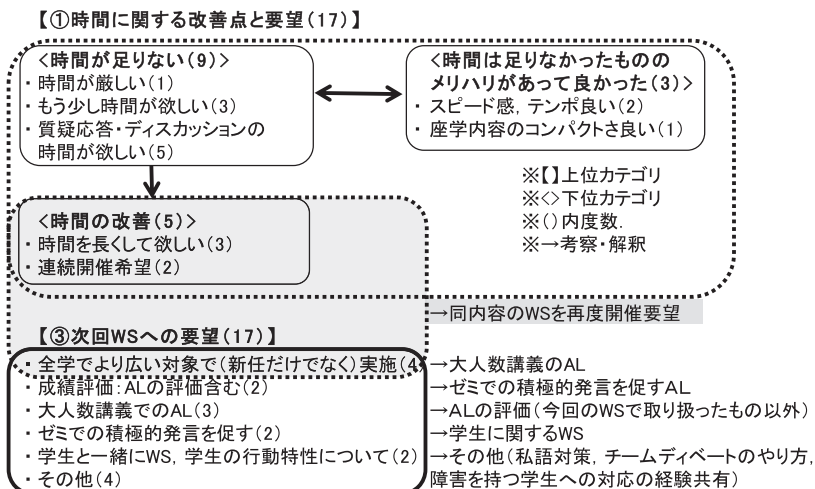


図1 自由記述の分析結果(カテゴリ①と③の図解)

### ◆アンケート結果に対する今後のアクション

ここから、今回と同内容のWSをもう一度開催するニーズがあると考えられたため、秋学期10/28(水)に所要時間を30分増やし、開催曜日を変更し、同じ内容で2回目のWSを開催する。また、これ以外のWS型研修へのニーズは、大人数講義の運営やゼミの積極的発言を促すためのもの、また学生と一緒に行うものが挙げられたため、これらの要望については、今後センターが行うWS等の企画で取り上げることを検討している。

## FD ワークショップ「授業デザインとアクティブラーニング」に参加して

今回、FD ワークショップ「授業デザインとアクティブラーニング」に参加させて頂きました。私は今年 2015 年 3 月に博士号を取得し、講師歴は今年で 2 年目になります。講師 1 年目はシラバスから外れないように授業を設計することでいっぱいでしたが、2 年目になると少し気持ちに余裕が出来、「どうすれば昨年度よりも学生のためになる授業ができるだろう」と考えるようになりました。そんなときにお声掛けを頂いた今回の WS は、今の自分に必要な勉強であると感じ、迷わず参加を希望しました。

WS に参加して最もありがたかったと思うことは、自分が「なにも知らなかったこと」に気づかせて頂いたことです。私はこれまで、授業設計というものは、ある種のセンスや経験則なのだと思い込んでいました。まず、授業を設計するのに役立つ手法があることや、それらが学習して身に付くことも知らなかったのです。WS では、「マンダラート」「ジグソー法」などの様々な手法を、使用場面、所要時間、活動単位、準備物、手順など、例を挙げながら説明していただきました。「効果的な授業設計をする先生方は、こうした手法を多く知って、場面に応じて活用しているのか」と気づくことができたこと、そして、自分がいかになにも知らないまま授業を設計しようとしていたかを知ることができたことが、今回 WS に参加しての最も大きな収穫でした。

また、普通の授業では他の講師の先生とお話しをする機会はほとんどなく、ましてや、自身と近いキャリアの先生とご一緒する機会は滅多にありませんが、WS には講師歴が近く、授業設計について自身と同じような悩みを抱える先生方が参加されており、ワーク中や合間の時間に、日頃の悩みや意見を共有することができました。授業を効果的に設計するための足がかりを頂いたことに加えて、様々な先生方とお話をする機会を頂き、自分自身を客観的に見るきっかけとなったことも、私にとって非常にありがたいことでした。WS で得られた知識や気づきを、今後の授業に活かしたいと思っています。大変貴重な勉強の機会を、ありがとうございました。



## 授業デザインとアクティブラーニングに参加して

2015年5月26日12時過ぎから2時間ほど、授業デザインとアクティブラーニングのワークショップに参加した。初めての教歴であるために、他の先生方がどのような授業をなさっているのか、どんな悩みをお持ちであるのかについて、ご意見を伺える良い機会だと思って参加した。ワークショップは、4人が一つのテーブルで話し合い、報告するという形式であった。3分ほど（1回1分30秒×2回）握手をしながら挨拶をするという形式は初めてであって困惑したが、やってみたら意外と新鮮であった。1部は、授業デザイン・教育方法に関するテーマで、学生目線から眺めることの重要性を痛感した。2部では、グループをリセットして新しいメンバーとグループワークを行った。付箋を利用してキーワードをつなげて、一つの思考ツリーを作る作業はとても興味深かった。それぞれのグループの発表を聞いていると、個別のキーワード自体は異なるが、それをつなげた場合に出てくるものは似ていて、これこそ授業における核心的要素だと思った。

全体としては、とても面白く有意義であったと思うが、若干気になる点もあった。限られた時間の中で多くの課題をこなしたために、当然ながら一つ一つをじっくり考える余裕がなかった。講師の先生は大変周到に準備をなさったにも関わらず、時間の関係上、省略されたものも多くあった。せっかくの機会であるので、休みの時間をもっと多く入れて、より時間を長くした方がいいのではと思った。あるいはよりテーマを絞ることも考えられなくはない。

ありがとうございました。

## マンダラートとKJ法、そして「どこでもシート」を授業で使ってみて

2015年度の授業が始まって間もなく、教員ラウンジに貼られた「FDワークショップ 授業デザインとアクティブラーニング」の告知に気がついた。すでに申し込みの締め切り日を過ぎていたが、急いで連絡すると快く受け入れてくださった。

「アクティブラーニング」というコンセプトにも繋がることだが、私が授業でまず心がけているのは、学生たちに「参加意識」と「(学習者としての)当事者意識」を持たせることだ。それがあると無いとでは、1学期間の授業の質や成果に大きな違いが生まれる。やらされている気分で渋々授業に出るのではなく、自分が選んで履修した授業で、自ら発見し、気づき、新しい知見にたどり着いて欲しい。なんでもそうだが、“学ぶ”ことも主体的であってこそ楽しいはずだ。学生たちの中にそうした姿勢を打ち出すために私自身もいろいろ工夫してきたが、今度のワークショップでは新しいことが学べそうだと、当日は楽しみに会場に向かった。

2時間あまりのワークショップは、理論あり、テクニックの紹介・実践ありと、盛りだくさんだったが、私がとりわけ自分の授業に応用できると思ったのが「グループワークの手法」として教わった「マンダラート」と「KJ法」、そしてその際使用した「どこでもシート」である。

川喜多二郎氏が考案したKJ法は知っている人も多いと思うが、今回のワークショップでは、KJ法とマンダラート(ご存じない方は検索を!)を組み合わせたグループワークを行った。4人でチームを作り、ひとつのテーマについて、まず各メンバーが自分の頭の中にあるアイデアを8つ選んで付箋に書き出す。次にその付箋を一堂に集めるのだが(4人分×8枚)、その時の台紙になるのが「どこでもシート」である。

私は今回初めてシートの存在を知ったのだが、付箋を貼るだけでなく、ホワイトボード用マーカーとイレーザで文字を書いたり消したりできる。私も院生時代

から付箋を大判模造紙に貼ってアイデアの整理や論文・レポートの構成を行っていたが、文字を書いたり消したりできる「どこでもシート」の方が遥かに使い勝手が良い。しかも静電気力で壁にくっつくので、そのまま発表やディスカッションに移行できる。この「どこでもシート」を壁に貼る段階では、私も含め参加者の中から感嘆の声が上がったので、これは授業でも使えるな、と直感した。

ここで、私がこの手法を取り入れてみようと思った授業について、少々ご説明しておこう（下表参照）。私は毎年春学期（前期）に、立教大学、A大学、B大学の3校で、質的調査を中心に据えた授業を行っている。以下に各授業の概要であるが、特記する点があるとすれば、留学生と日本人学生の混合授業だということであろうか。

	立教大学	A大学	B大学
2015年度履修者内訳	17人 (留学生4人、日本人学生13人)	18人 (留学生14人、日本人学生4人)	30人 (留学生3人、日本人学生27人)
教室内言語	英語	英語	日本語
授業回数	90分×1/週	90分×2/週	90分×1/週
質的調査の内容	留学生と日本人学生がチームを作り、働く人に仕事についてのインタビューを行う。	留学生と日本人学生がチームを作り、大学周辺のコミュニティでフィールドワークを行う（主にインタビューと参与観察）。調査のトピックは自分たちで決める。	学生は各自働く女性に仕事についてのインタビューを行う。そのデータを持ち寄り、5名でグループを作って、分析・発表。
備考		サービス・ラーニング認定科目	社会調査士資格認定科目

履修者数や時間の関係で、どうしてもフィールドワーク、データ分析、プレゼンテーションのいずれか（あるいは全て）をグループで行わなければならないのだが、それが中々難しい。そもそも自分が集めたフィールド・データをアカデミックなフレームワークに納めること自体、大学生には難しいし、私の授業ではリサーチの最終テーマも自分たちで絞り込んで決定しなければならない。それをグループで行えば、アイデアも、希望や目標設定の数も人数分あるわけで、コンセンサスへの道のりは長く険しくなる。時間的制約のある中で、毎学期フィールド・データの分析の指導が手薄になり、気になっていた。

そんな時にワークショップで新しいグループワークの手法—しかも授業内容に

うってつけと思われる一を学んだわけだ。これはさっそく試してみたい。幸い学生たちがデータ分析に着手するまでまだ日にちがあったので、大急ぎでどこでもシート、マーカー、イレーザー、付箋（75mm×75mm）の束を購入した。

3つの授業はどれも質的調査を根幹に据えているとは言え、授業デザインはそれぞれ異なる。一番早かったA大学では、2度目のフィールドワークが終わった段階で、チーム・プロジェクトの今後の方向性を決定する為にこのグループワークを行った（6月初旬）。そして立教大学とB大学では、データの大元になるインタビューがほぼ終了した段階で、語りの分析の為にこのワークを行った（6月末）。どの大学でもKJ法やマンダラートを知っている学生は皆無で、最初に私から手順を教わっても、“恐る恐る手を付ける”という感じだったが、各自のアイデアを書き付けた付箋をマンダラート用紙から外して一堂に集め、グルーピング／コーディングする段階になると、この作業の意図を理解し始め、俄然楽しくなったようだ。

このグループワークは、複数のソースからのアイデア／データをまとめたり関連づけたりする時に威力を発揮する。当該学期の授業では、

- ① 複数人が集めたデータ
- ② 複数回に渡って行われたフィールドワーク／インタビュー
- ③ 複数人が（ぼんやりと）持っているアイデア

をグルーピング／コーディングする為にこのグループワークを行い、どれにも威力を発揮したと思う。「質的データを分析しなさい」と言われても、どうしたら良いのか学生は分からない。だが付箋とどこでもシートを使えば、それが具体的なプロセスとして見えてくる。付箋を貼り替えたり、マーカーやイレーザーで書いたり消したりする内に、様々なアイデアやデータの繋がりが明確になり、自分たちが集めてきたフィールドデータをどう取り扱ったら良いのかも見えてくる。私がよく言う「自分の頭を使って考えてごらん」とはどういうことなのか、このグループワークを通して体感してくれたと思う。

ついでに言えば、チームのブレインストーミング後、全体とシェアする際に「どこでもシートを壁に貼って発表して」というと、学生たちの間に「ほぉ〜」という嘆声があがった（留学生、日本人学生の区別無く、皆、感心してくれた）。その内、どこでもシートを知っている学生が増えれば、この手の反応は無くなるのだろうが、ああいう驚きも授業には良いスパイスだと思う。

以上、5月末に教わったKJ法+マンダラート+どこでもシートをさっそく授業で使ってみて、期待通りの手応えを感じたというご報告だが、いくつか気づいたことを書き記してこの稿を終わろうと思う。

先に「学生たちがこの作業の意図を理解し始めると、俄然楽しくなったようだ」と書いたが、その理解の度合いは学生の間でかなり差があった。立教大学主催のワークショップは、参加者が全員教職員だった為、分析などは皆さん手慣れたもので、初めての体験でも気持ち良く作業が進んだのだが、学生たちだとそうは行かない。何をやっているのか中々掴めない学生がいるので、グループ毎に机をまとめて作業しているところを教員が回って手助けする必要がある。また、このグループワークは実践してこそ意義が分かるというものなので、欠席者がいるグループは出遅れてしまう。ある大学では、同じ留学生寮に住んでいる学生が私から用具一式を借りて寮に持ち帰り、欠席した学生を指導してくれたりして、嬉しかった。

先述の通り、急遽導入を決めたグループワークなので、来年度はどこの段階で取り入れるかを再考し、シラバスに書き入れる予定である。この方法を取り入れるにあたり、ひとつ難点があるとすれば、費用の点かもしれない。教材一式を揃えようと、それなりの値段（1万円程度）になってしまうのだ。B大学は事情を説明するとすぐを買ってくれたのだが、A大学では（言うまでもなく）前年度の予算申請に入れていなかったし、立教大学は非常勤講師に教材購入費が無い為、自費で購入した。一度購入すればしばらく使えるとは言え、消耗品である。非常勤講師がこのやり方を取り入れたいと思っても、費用がネックになるかもしれない。更に言えば、非常勤講師は研究室が無いので、結構な嵩と重さがある教材を保管する場所が無く、毎回持ち歩くことになる。私は各大学で便宜を図っていただいたが、その点も非常勤講師には不利だと思う。

本稿はKJ法+マンダラート+どこでもシートの実践について書いたが、ワークショップでは他にも具体的なテクニックをたくさん教わった。元々自分で工夫して実践して来たことが、アクティブラーニングの手法として有効だったのだなと思うことも多々あった。自分では中々そこまで手が回らないので、今後も大学教育開発・支援センターに具体的な手法をご教示いただければ、本当にありがたい。授業の質を高める為に実に有益なワークショップを体験できて、心から感謝している。

## おわりに

---

最近、小学3年生になる息子が、私のパートナーに「パパは絡みづらい」とぼやいたらしい。

アクティブラーニング全盛のこのご時勢、私の「絡みづらい」性格は、仕事をする上でなかなか致命的である。思い返してみると、講義でもゼミでも、この言葉で説明できる現象が少なくない。現在41歳。「まだまだ学生と話が合う」と思えた時代は、とくに終わっている。そこで、何とかしなければ、でも何とかなるものなのだろうか、という思いを抱きつつ、FDワークショップに参加した。

今回のワークショップは、アクティブラーニングを受講者が学生役になりながら実体験するものであり、学生の気持ちを追体験しながらテクニクを教わることができ、大変参考になった。

ワークショップの場では、法学部の一教員として感じているアクティブラーニングをすることの難しさについても相談をしてみた。私は民法を専門としているが、民法という法律は（他の法律系科目も多かれ少なかれ同様の事情を持つと思われるが）、場合によってはかなり技術的であり、複雑に絡み合うルールとそれらのルールの背後にある理念を説明すること自体にかなりの時間を割かなければならない。さらに、教えるべきことの情報量も膨大である（民法全体をカバーしたある教科書は4冊本で約2000頁ある）。そうすると、学生がアクティブに法的問題に取り組む、つまり学生があるルールをどう使うのか、とりわけ新たな現象を前に既存のルールをどのように応用するのかを自分自身の頭で考えるというレベルに到達するのは、かなり難しい、あるいはかなりの時間がかかる。ただし、多くの法学部の同僚の先生方は、それでもさまざまな工夫を凝らして学生に主体性を持って取り組むプログラムを開発されていることも付け加えておかなければならない。

ワークショップを契機に、とにかく教わったことをやってみようと思い、自己流のジグソー法（その内容は本論を参照されたい）をやってみた。相互に関連する課題を2つのグループに与え、第1グループは、第1グループの課題とその検討結果を第2グループに教える、第2グループは第2グループの課題とその検討結果を第1グループに教えるといった具合である。詐害行為取消権という

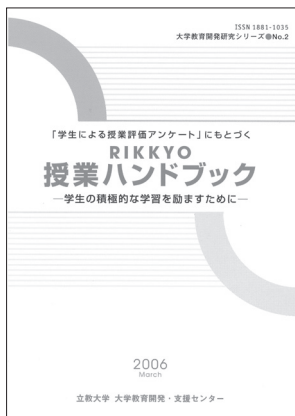
---

民法の中でも飛び切りややこしいテーマであるにもかかわらず、学生たちは上手に、そして楽しそうに課題をこなしていた。そして、学生と私との間のコミュニケーションの機会もずいぶん増えた。さらに、その後も、ジグソー法をした週の共通の体験がさまざまな場面で効果的に働いた。

皆さん、この本を手にとって、「これは使えそうだな」と思ったものを授業で試してみませんか？思い切ってやってみると、意外とうまくいくものですよ！この「絡みづらい」私でも何とかなったのですから。

大学教育開発・支援センター センター員、法学部教授

**幡野 弘樹**



シリーズNO.2  
「学生による授業評価アンケート」にもとづく  
RIKKYO授業ハンドブック  
—学生の積極的な学習を励ますために— (2006年)

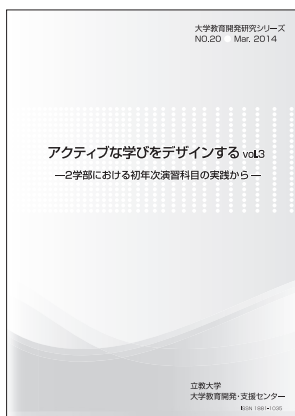


NO.11  
アクティブな学びをデザインする  
—4つの授業をめぐる対話— (2010年)

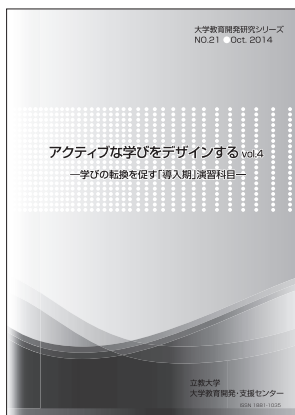


NO.14  
アクティブな学びをデザインする vol.2  
—学生の気づきを促す3つの対話— (2011年)





NO.20  
アクティブな学びをデザインする vol.3  
—2学部における初年次演習科目の実践から—(2014年)



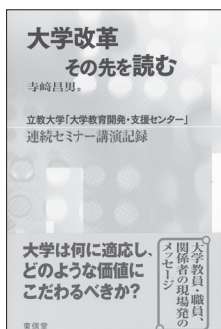
NO.21  
アクティブな学びをデザインする vol.4  
—学びの転換を促す「導入期」演習科目—(2014年)

●大学教育開発研究シリーズ バックナンバー

- NO.1** 外から見た立教大学  
—ミッションと社会的要請— (2006年)
- NO.2** 「学生による授業評価アンケート」にもとづくRIKKYO授業ハンドブック  
—学生の積極的な学習を励ますために— (2006年)
- NO.3** 変化する高校生と大学への期待  
—高校から見た立教大学— (2007年)
- NO.4** わが大学・わが学部の教育改革を語る  
—学生の学ぶ力、選ぶ力とカリキュラム— (2007年)
- NO.5** 立教大学の初年次教育とその展開  
—〈勉強〉から〈課題探求型学習〉への道— (2007年)
- NO.6** 学生が見た立教大学の初年次教育  
—今後の充実に向けて— (2008年)
- NO.7** 立教大学の今後と中教審の審議  
—学士課程教育の再検討と将来を考える— (2009年)
- NO.8** バージニア工科大学視察報告  
—米国における先進的な教育改革の事例に学ぶ— (2009年)
- NO.9** 立教大学における学習支援と図書館 (2009年)
- NO.10** 立教大学におけるアドミッション・ポリシー (2010年)
- NO.11** アクティブな学びをデザインする  
—4つの授業をめぐる対話— (2010年)
- NO.12** グローバル化に対応する大学教育の在り方  
—東アジアの高等教育における質改善への取組に学ぶ— (2010年)
- NO.13** 大学生の社会的・職業的自立に向けた教養教育の在り方 (2011年)
- NO.14** アクティブな学びをデザインする vol.2  
—学生の気づきを促す3つの対話— (2011年)

- NO.15** 学位取得へ導く大学院教育のあり方  
—博士後期課程を中心として— (2012年)
- NO.16** 日本の大学に求められている国際通用力とは (2012年)
- NO.17** 学びが高まる学習環境とは  
—ハード、ソフト、コミュニティー (2013年)
- NO.18** 大学院研究指導への誘い<sup>いざな</sup>  
—海外マニュアルの紹介— (2013年)
- NO.19** 「読む」学生が育つ大学教育を求めて  
—若者の読書実態と授業実践を始点として— (2013年)
- NO.20** アクティブな学びをデザインする vol.3  
—2学部における初年次演習科目の実践から— (2014年)
- NO.21** アクティブな学びをデザインする vol.4  
—学びの転換を促す「導入期」演習科目— (2014年)
- NO.22** 「学習成果」の設定と評価  
—アカデミック・スキルの育成を手がかりに— (2015年)
- NO.23** 海外大学における博士号取得  
—立教大学教員の体験をきく— (2015年)

## ●連続セミナー講演記録



寺崎昌男『大学改革 その先を読む』(2007年)  
東信堂 ¥1,300

TL (Teaching and Learning) 部会

2015 年度 FD ワーキンググループ

小澤 康裕 (ワーキンググループ座長、副センター長、経済学部准教授)

幡野 弘樹 (センター員、法学部教授、2015年9月30日まで)

神橋 一彦 (センター員、法学部教授、2015年10月1日より)

谷村 英洋 (センター学術調査員)

山本 裕子 (センター学術調査員)

今田 晶子 (センター課長、2015年5月31日まで)

遠藤 裕子 (センター課長、2015年6月1日より)

上原 裕輔 (センター職員)

佐藤 百恵 (センター職員)

アクティブな学びをデザインする vol.5

## 授業デザインとアクティブラーニング

— 新任教員向けFDワークショップ開催記録 —

2015年11月発行

---

執筆・編集 山本 裕子・谷村 英洋

発 行

立教大学 大学教育開発・支援センター

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

TEL : 03-3985-4624 FAX : 03-3985-4615

<http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/CDSHE/>

e-mail : [cdshe@rikkyo.ac.jp](mailto:cdshe@rikkyo.ac.jp)

制 作

株式会社アクセスリード

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-15-1 渋谷クロスタワー 24階

TEL : 03-5774-2330 FAX : 03-5774-2339



RIKKYO UNIVERSITY